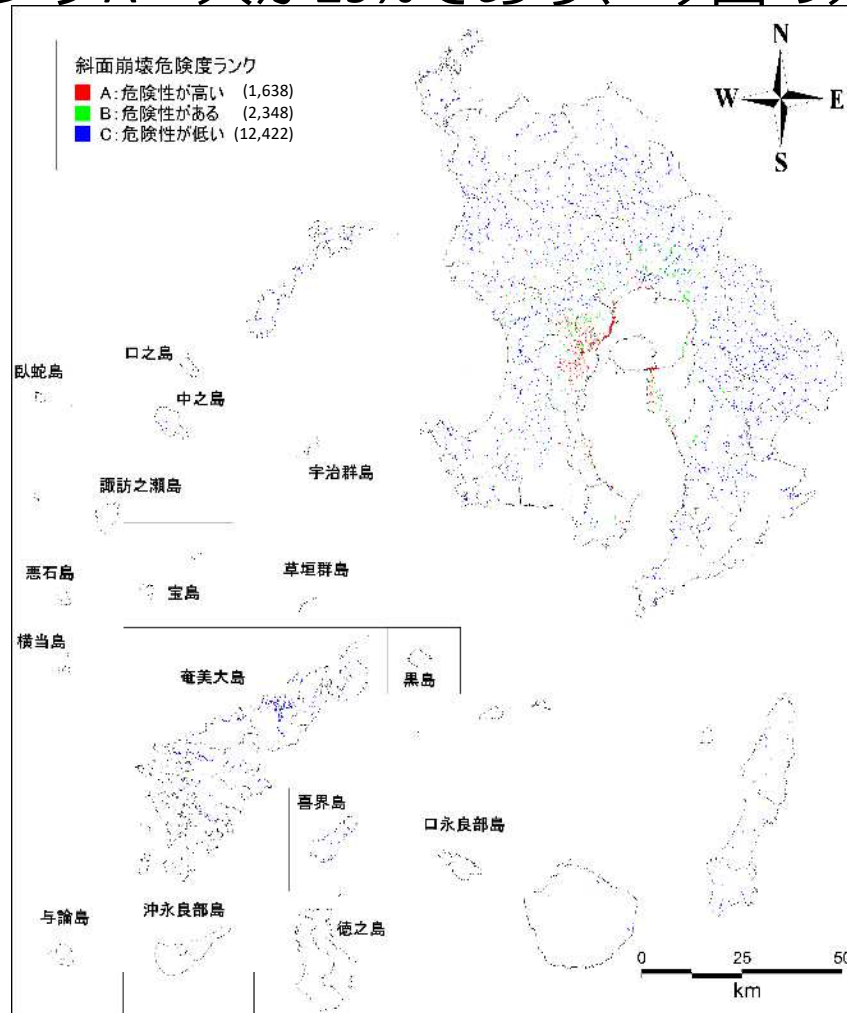
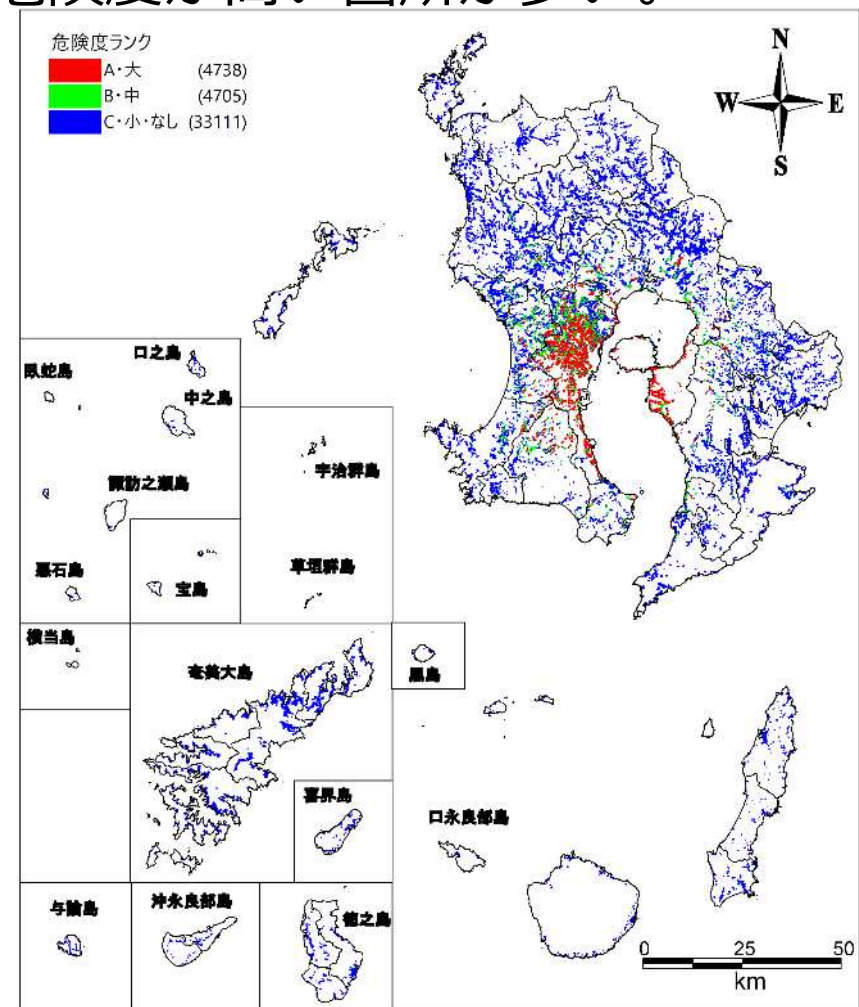


6. 前回想定との比較 ①鹿児島湾直下の地震

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は10%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が29%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



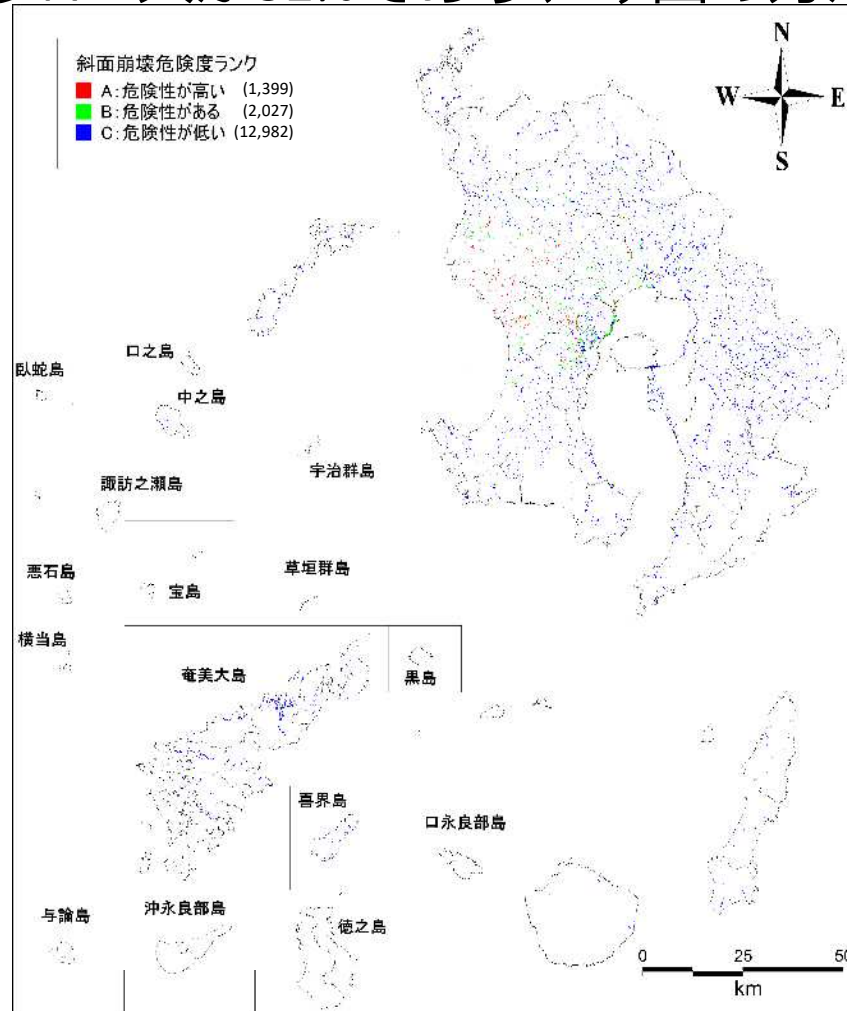
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区 (前回)



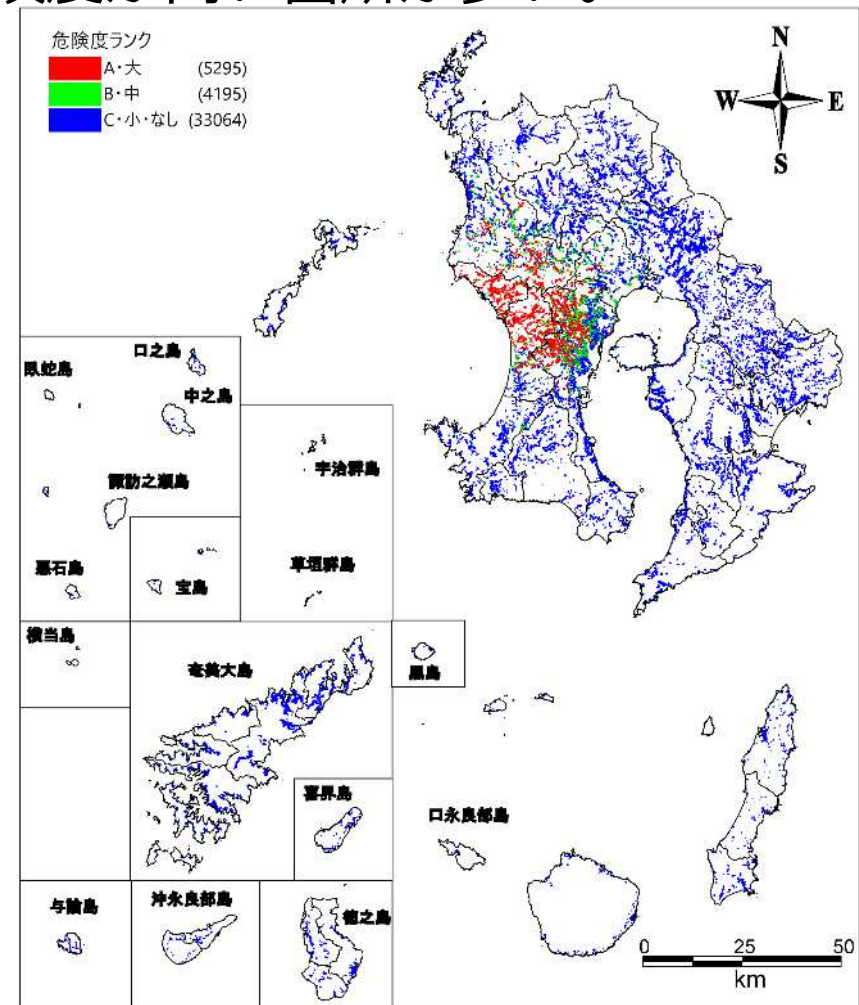
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ②県西部直下の地震【市来断層帯（市来区間）近辺】

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は9%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が32%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



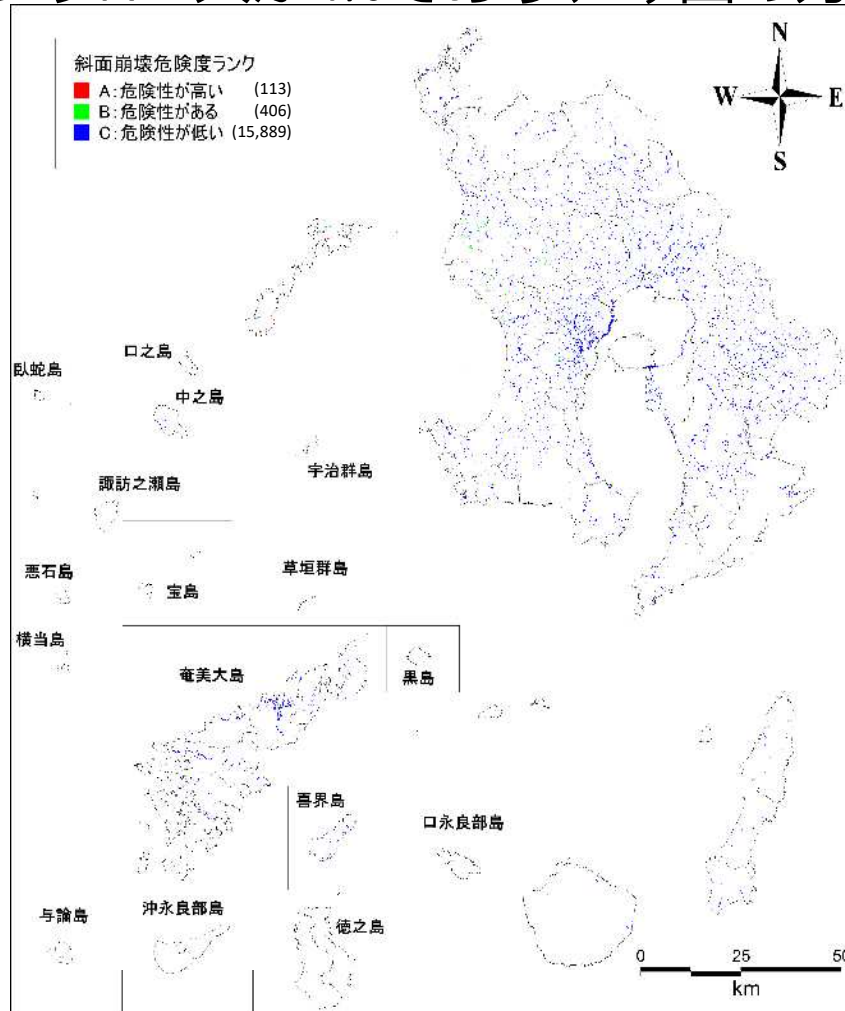
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



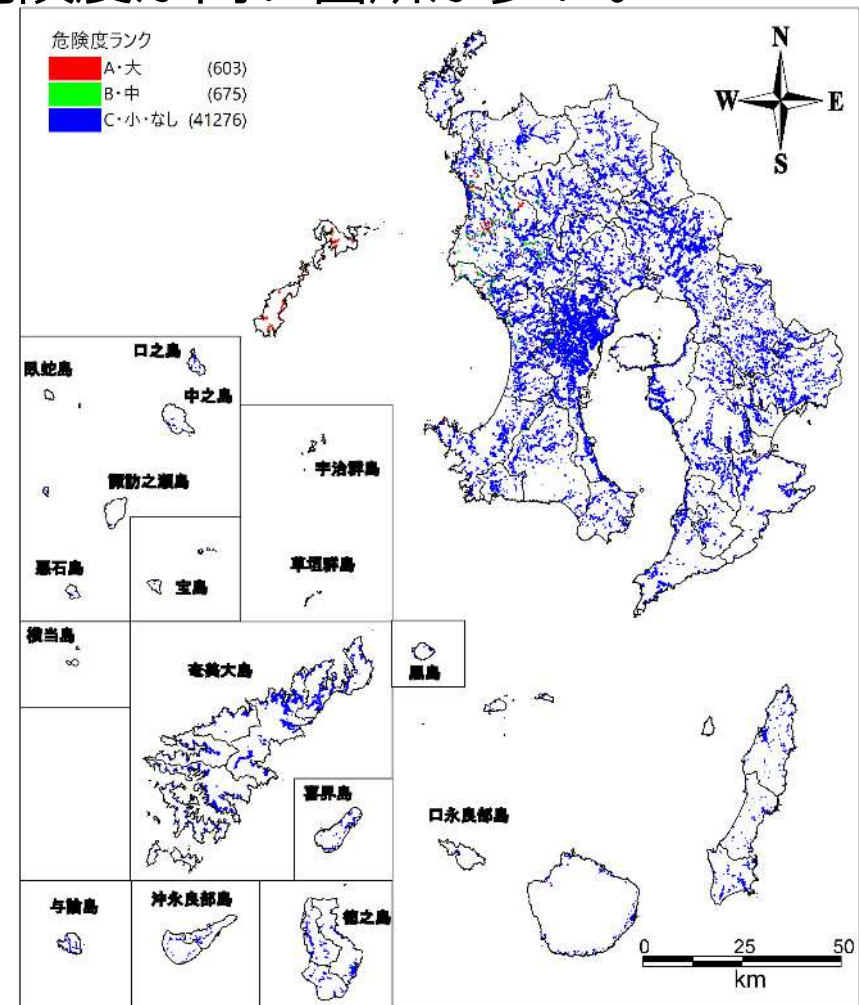
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ③甬島列島東方沖の地震【甬断層帯（新区間） 近辺】

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は0.7%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が4%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



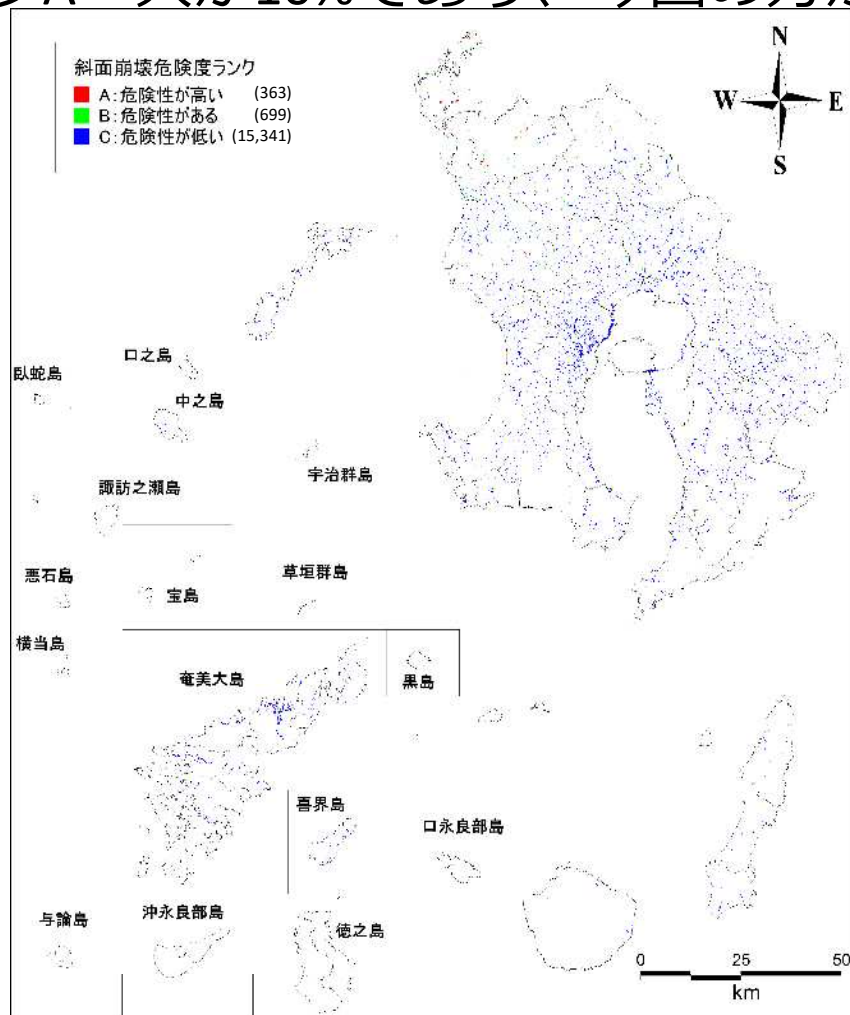
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



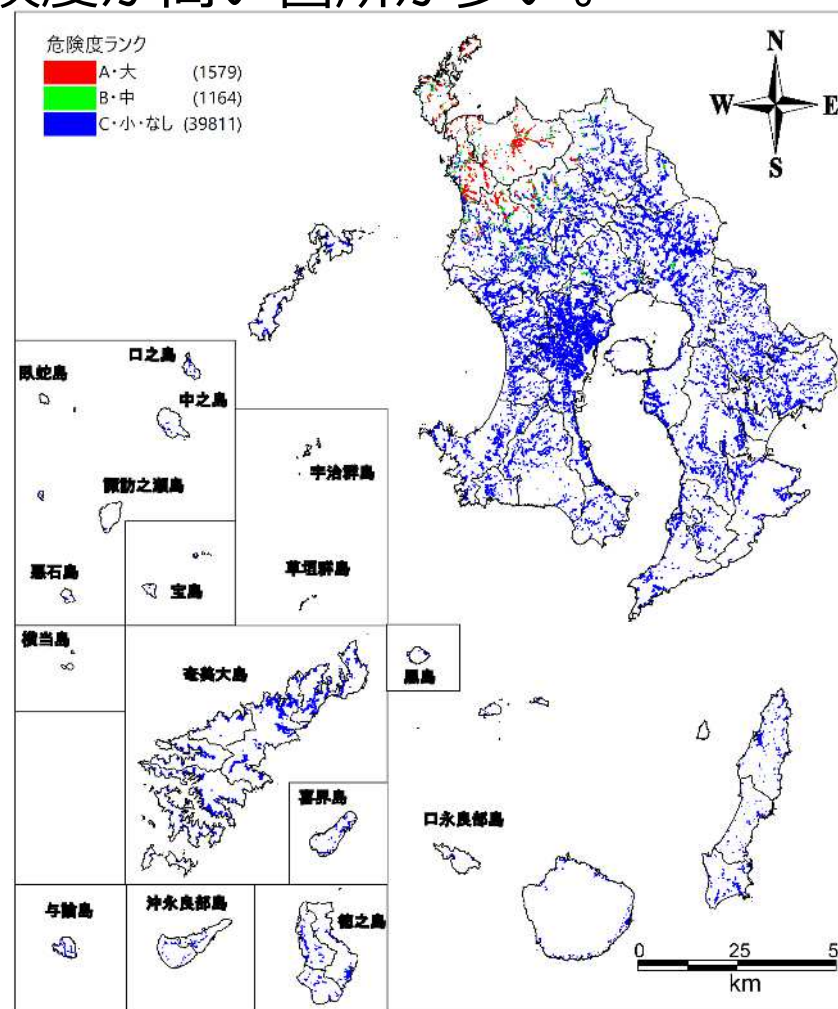
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ④県北西部直下【出水断層帯近辺】

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は2%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が10%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



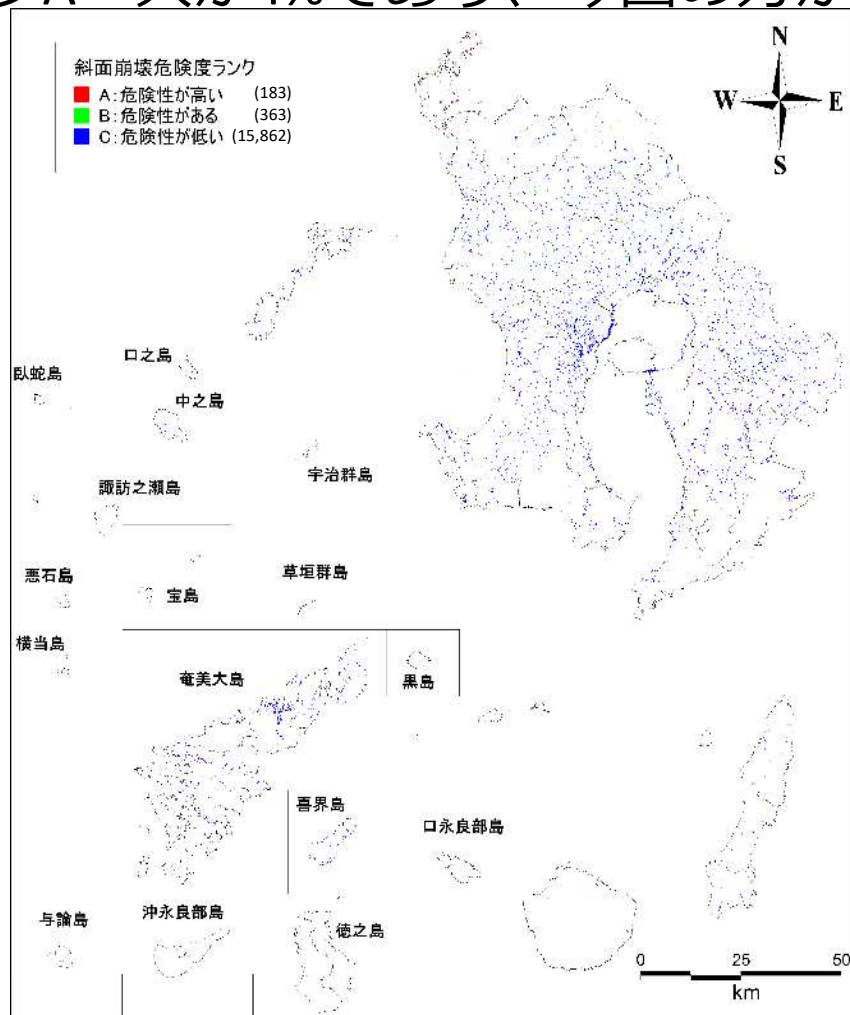
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区 (前回)



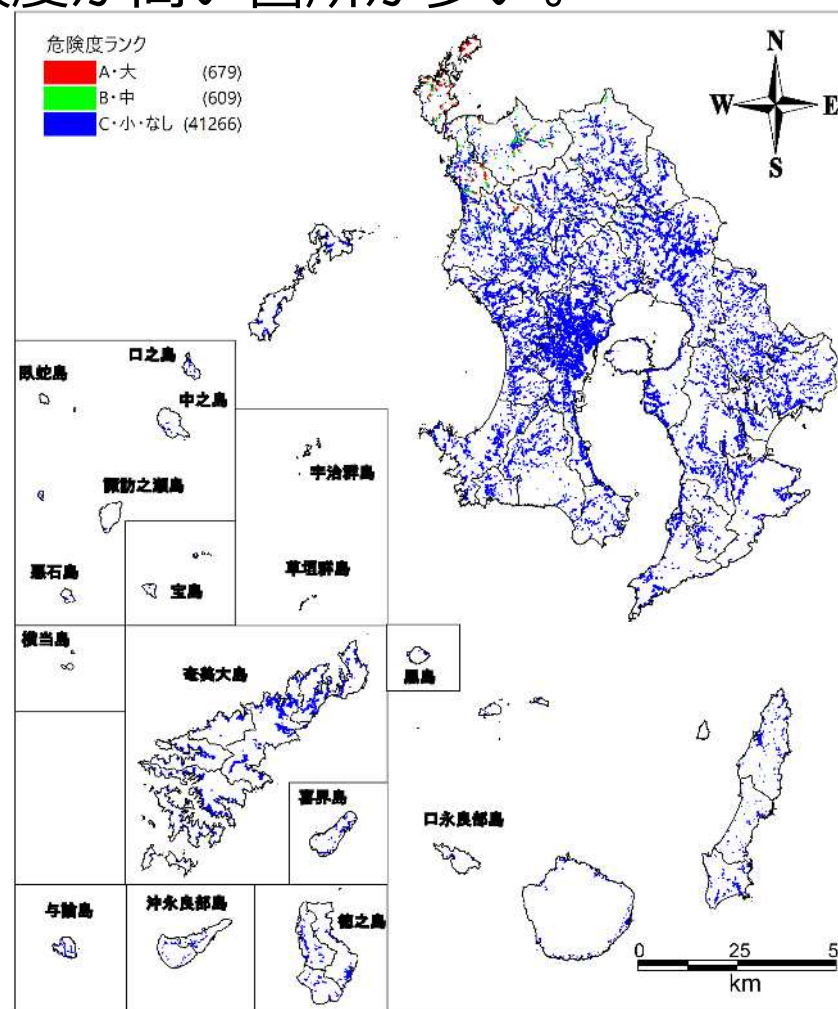
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑤熊本県南部の地震【日奈久断層帯（八代海区間）近辺】

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は1%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が4%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



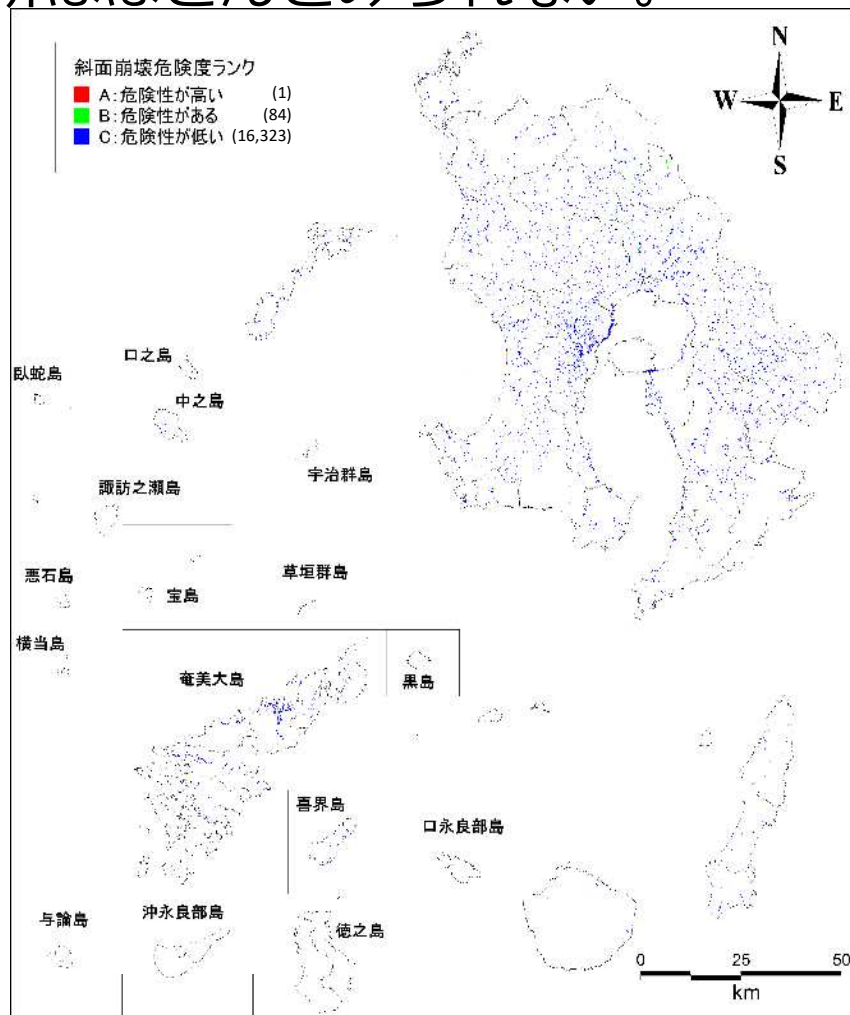
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



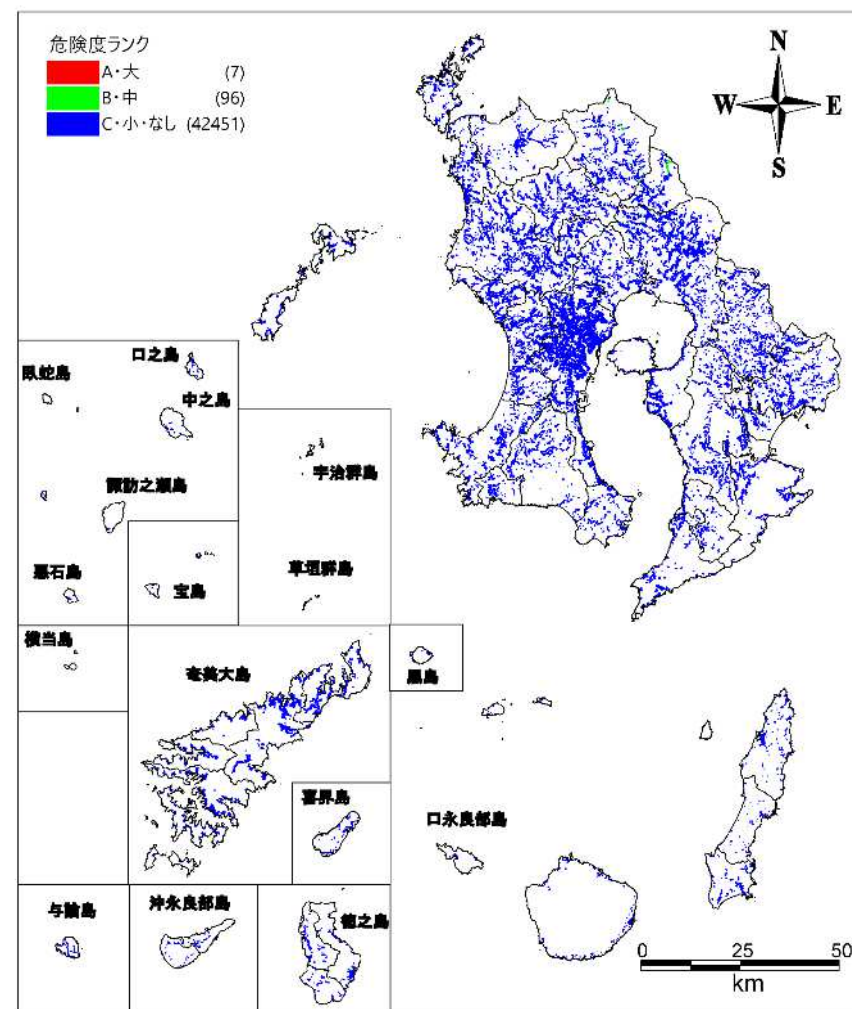
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑥県北部直下【人吉盆地南縁断層近辺】

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回、今回いずれもランクA、B、大、中となる箇所はほとんどみられない。



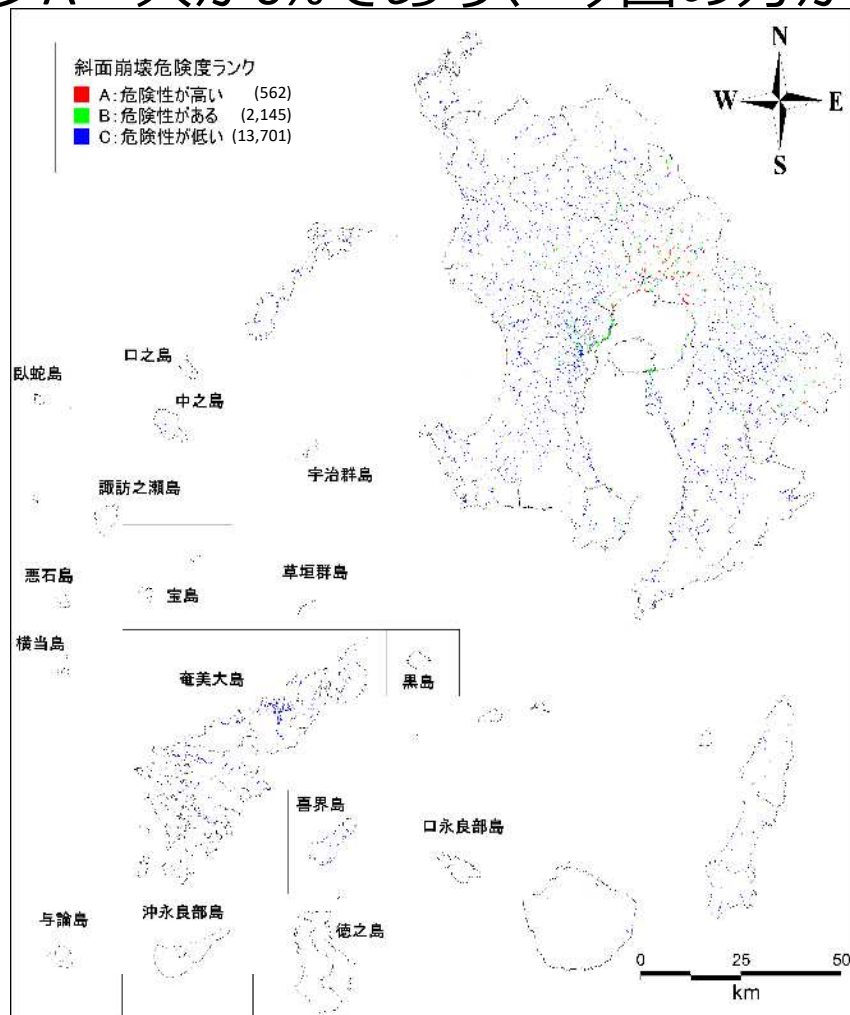
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



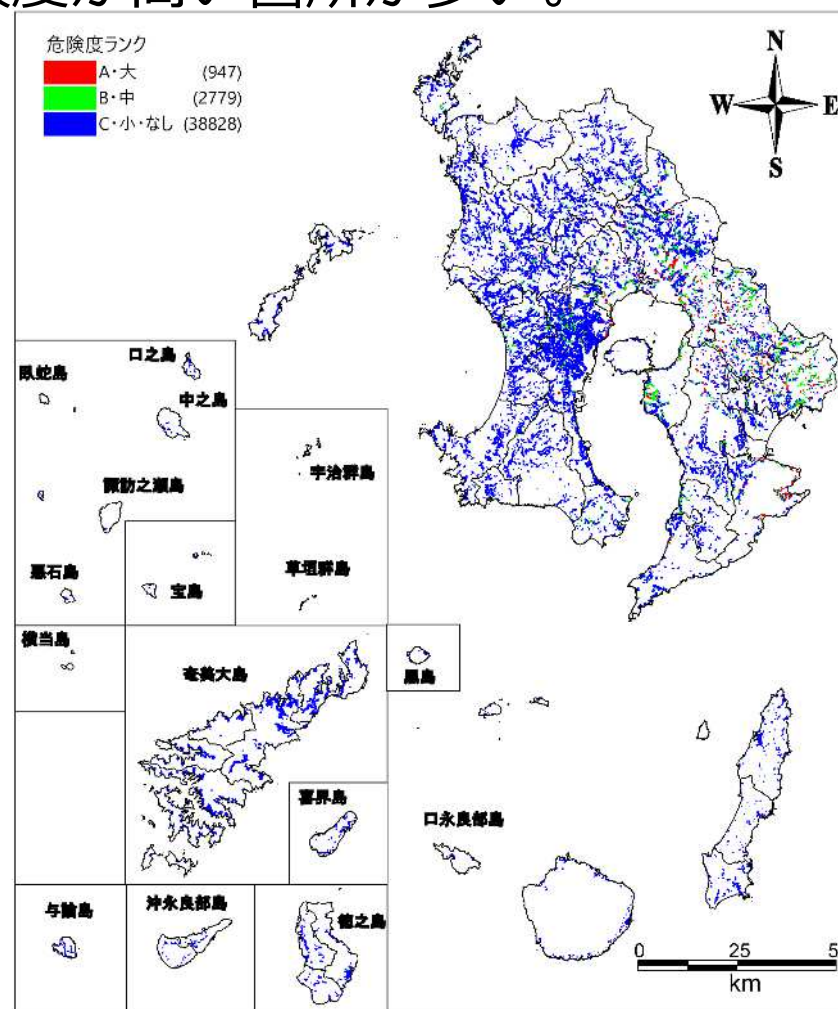
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑦南海トラフ（最大クラス：基本）

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は3%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が6%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



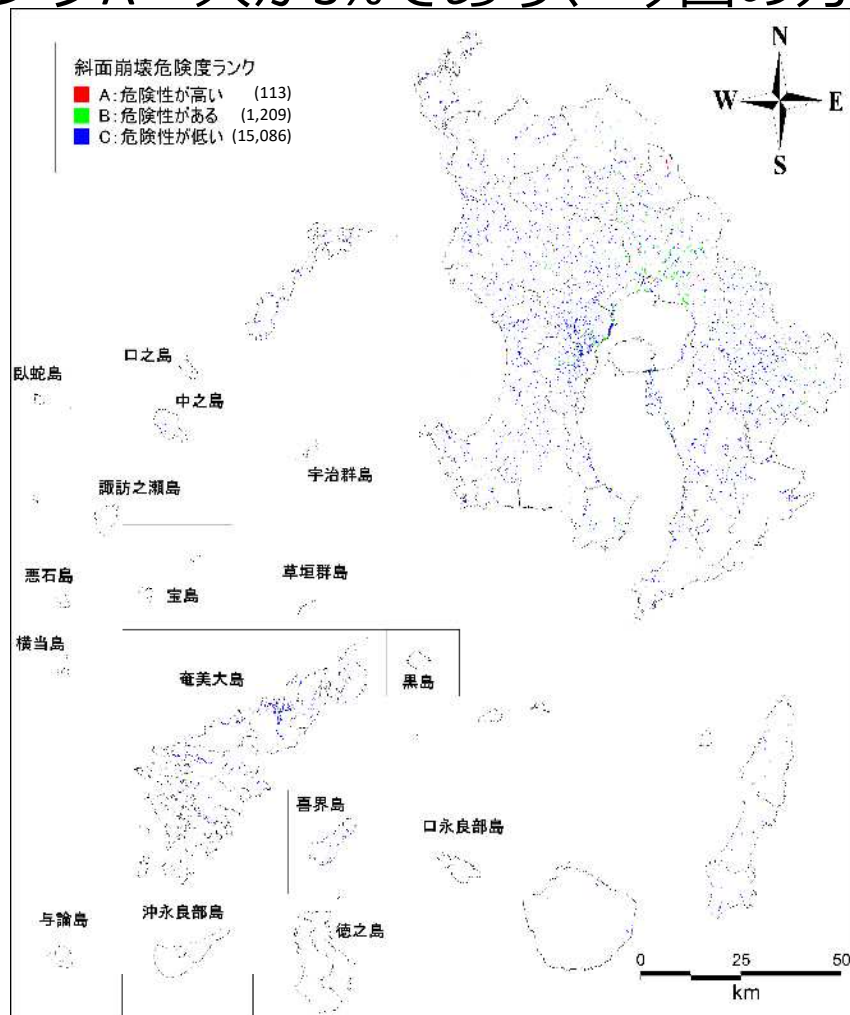
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



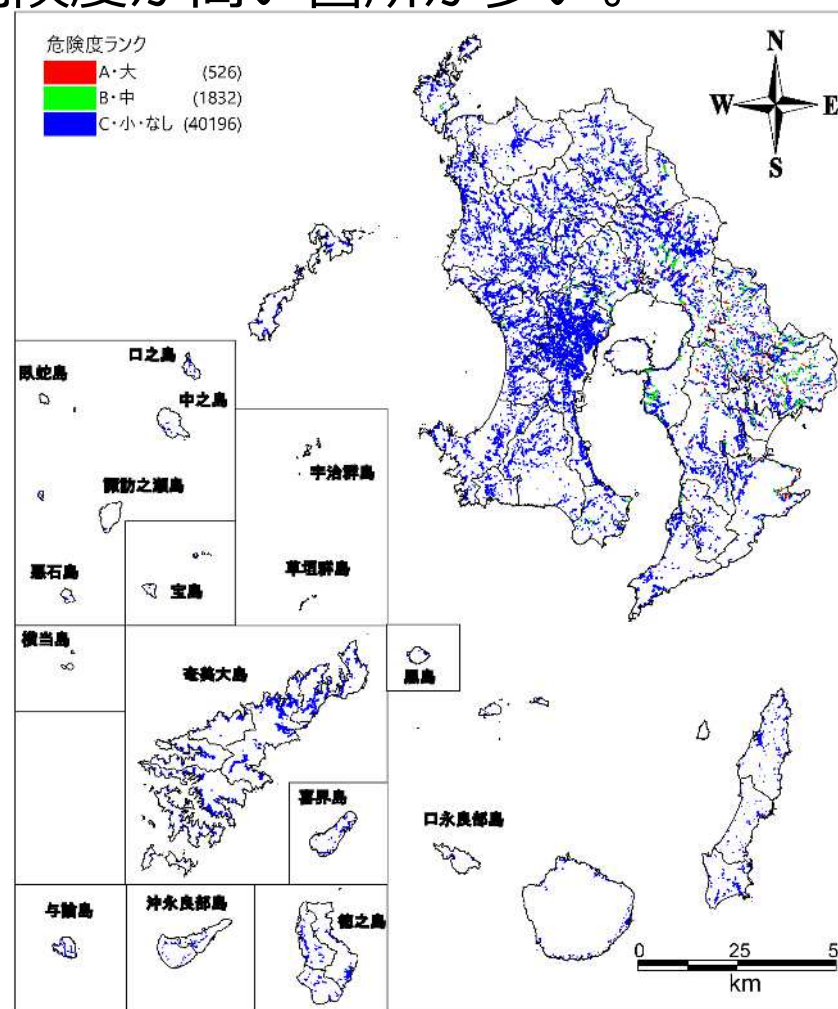
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑦南海トラフ（最大クラス：東側）

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は0.7%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が3%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



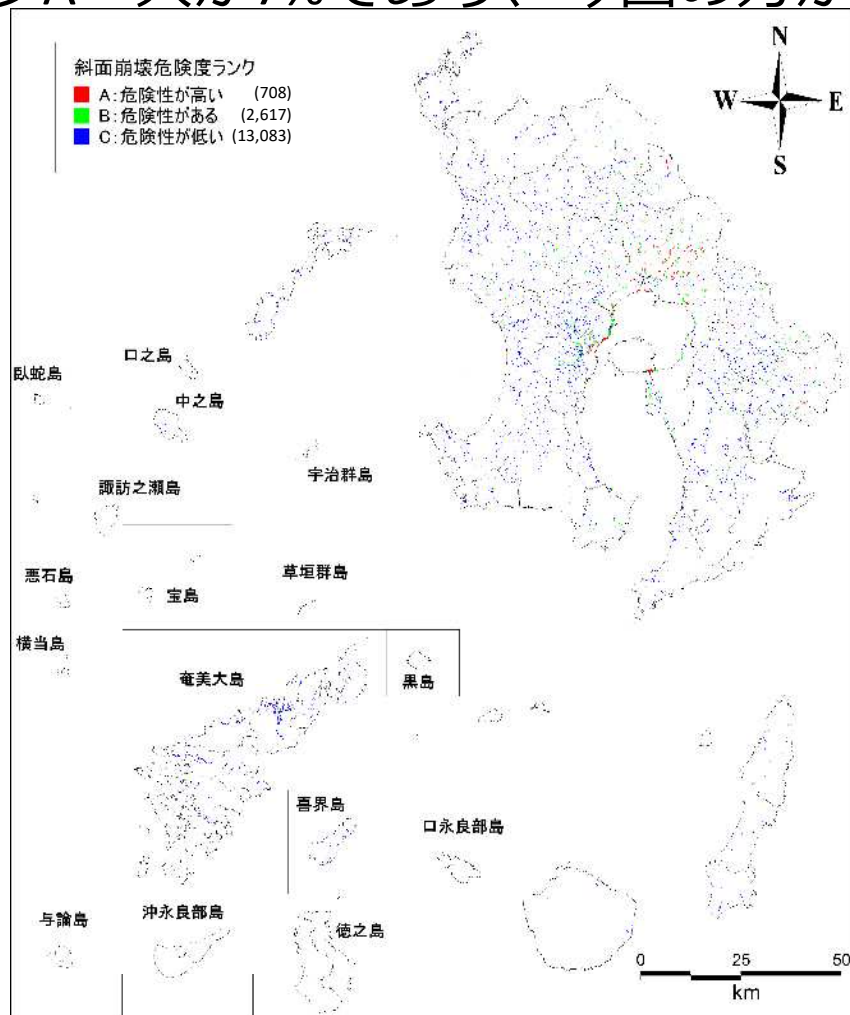
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



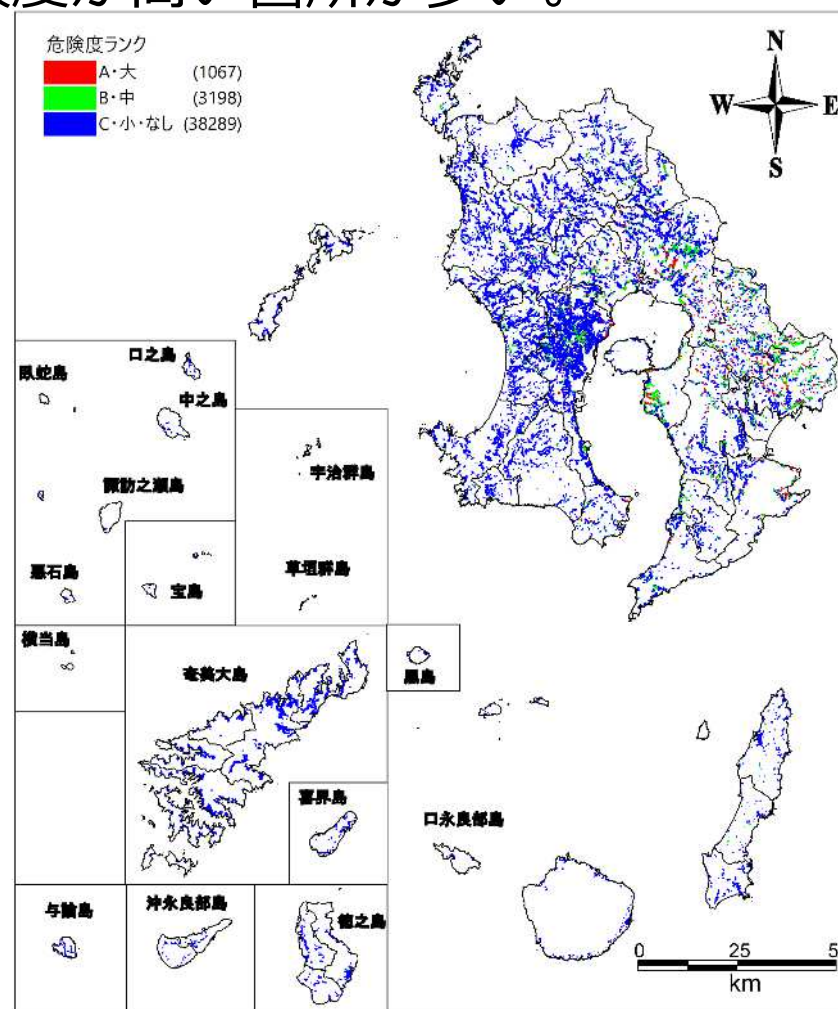
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑦南海トラフ（最大クラス：西側）

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前は4%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が7%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



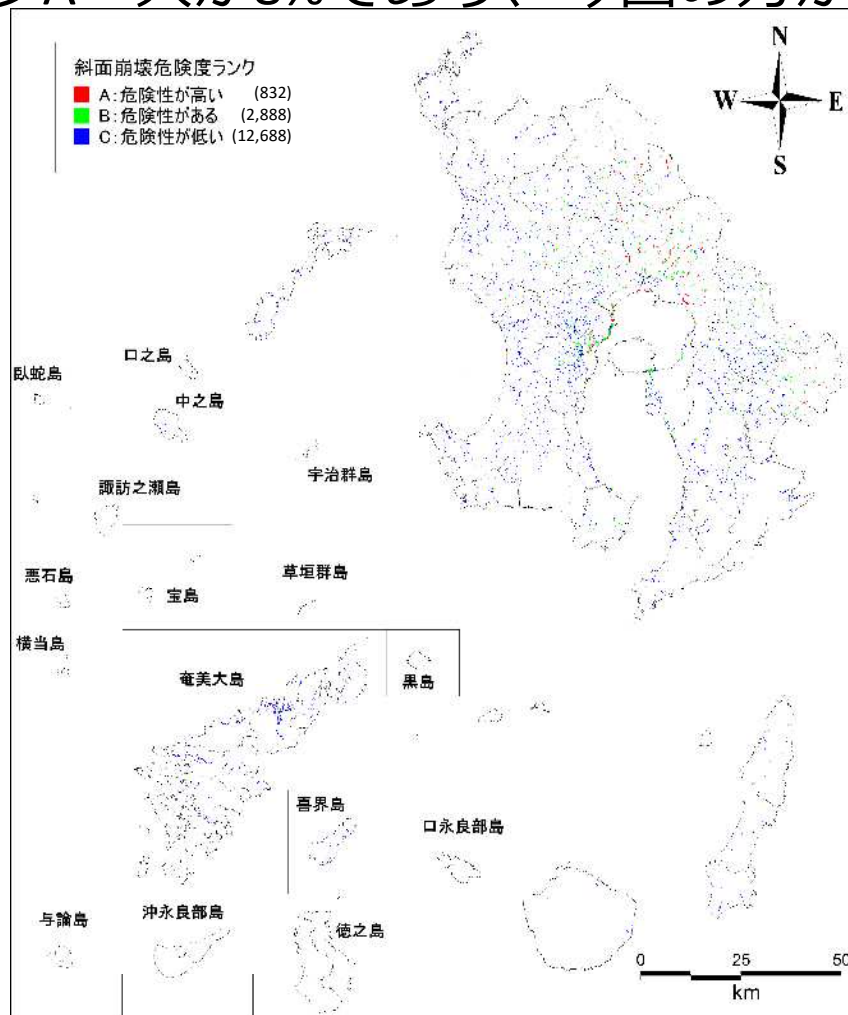
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



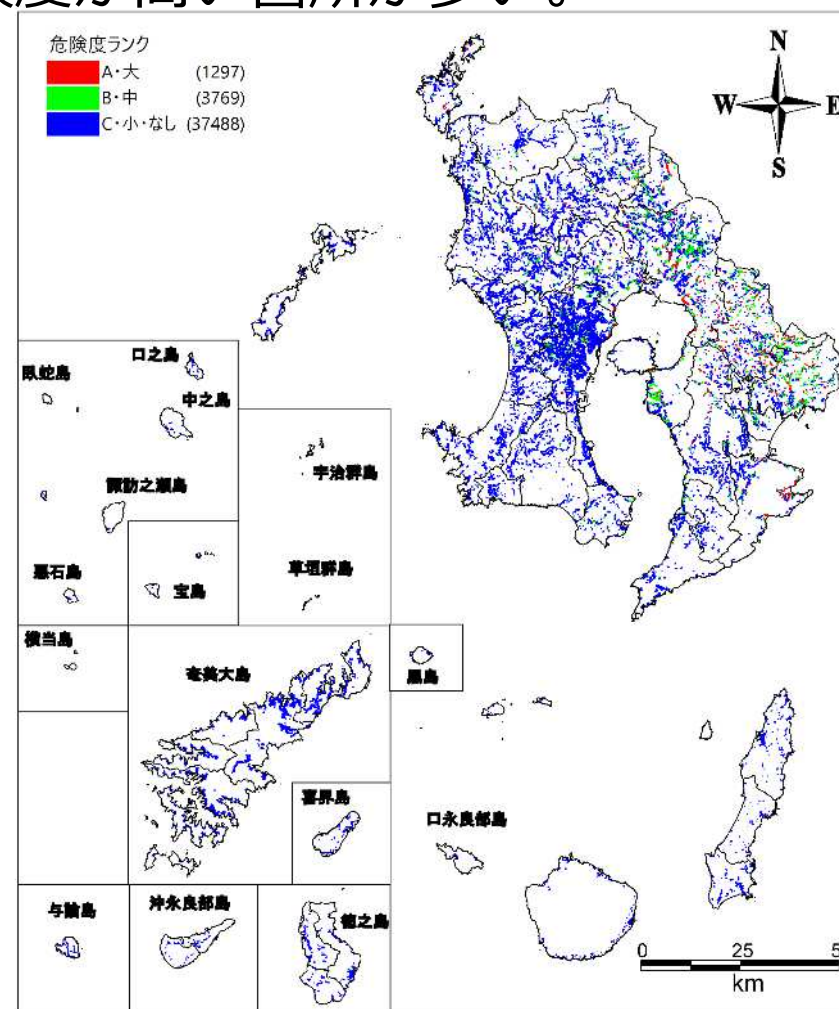
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑦南海トラフ（最大クラス：陸側）

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は5%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が8%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



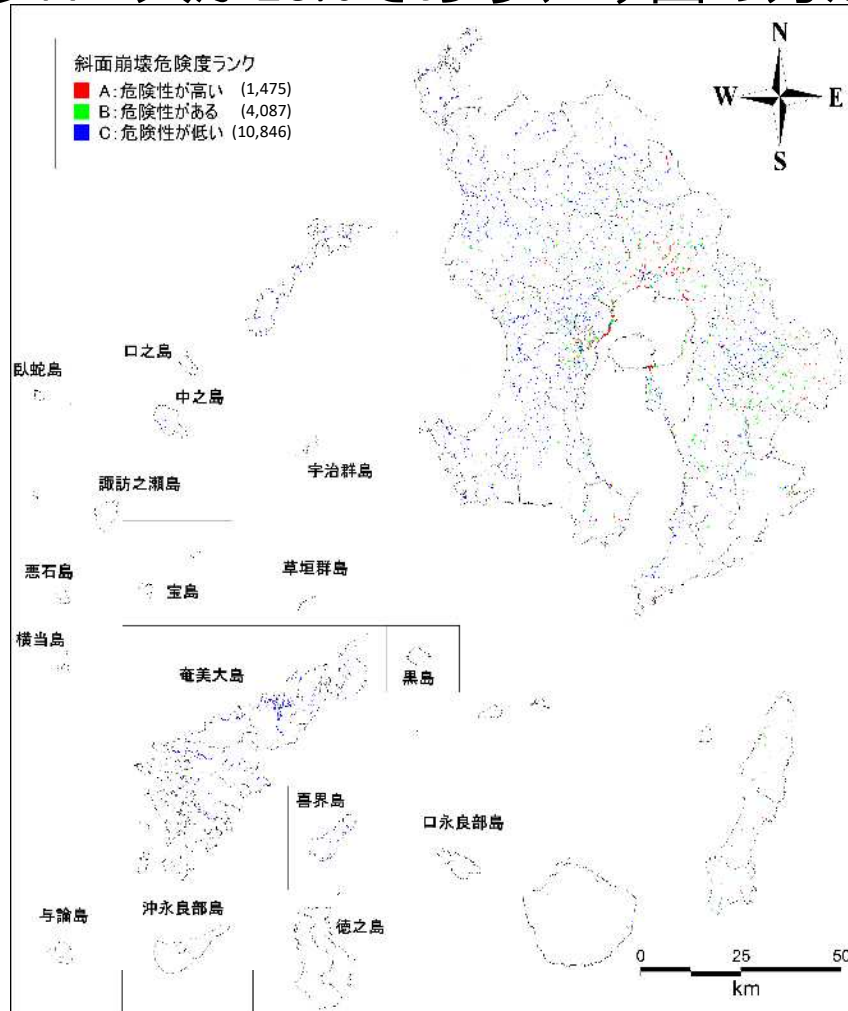
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



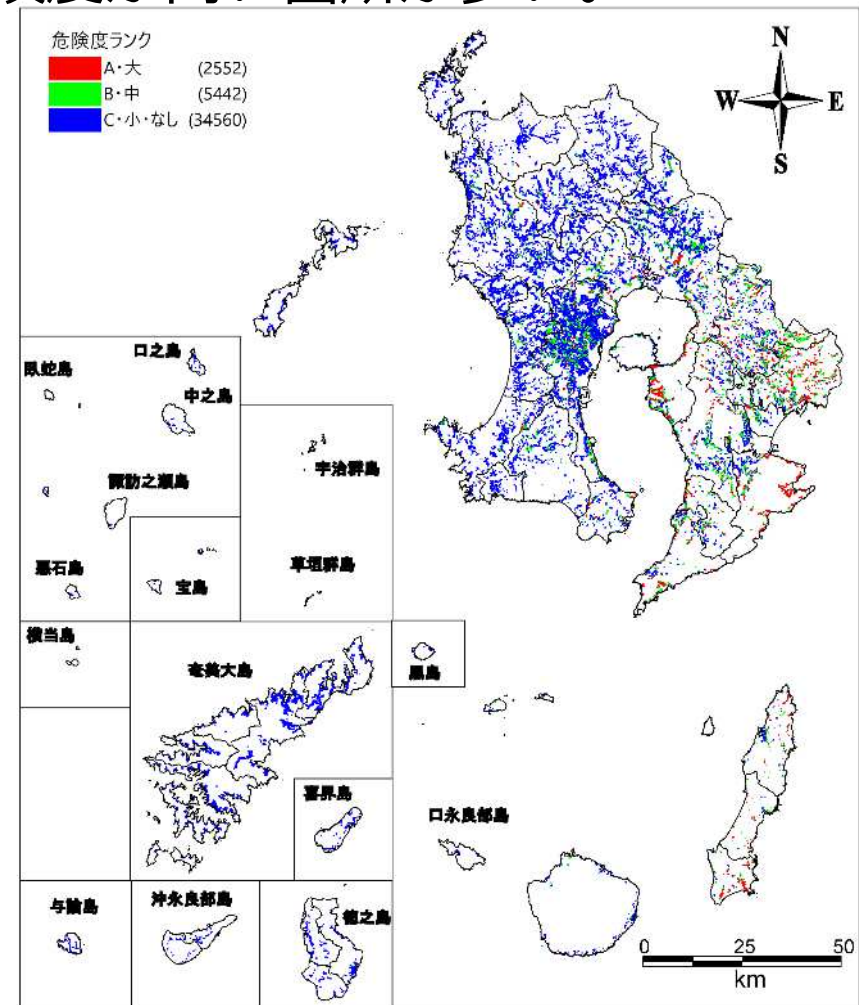
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑧種子島東方沖の地震

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は9%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が16%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



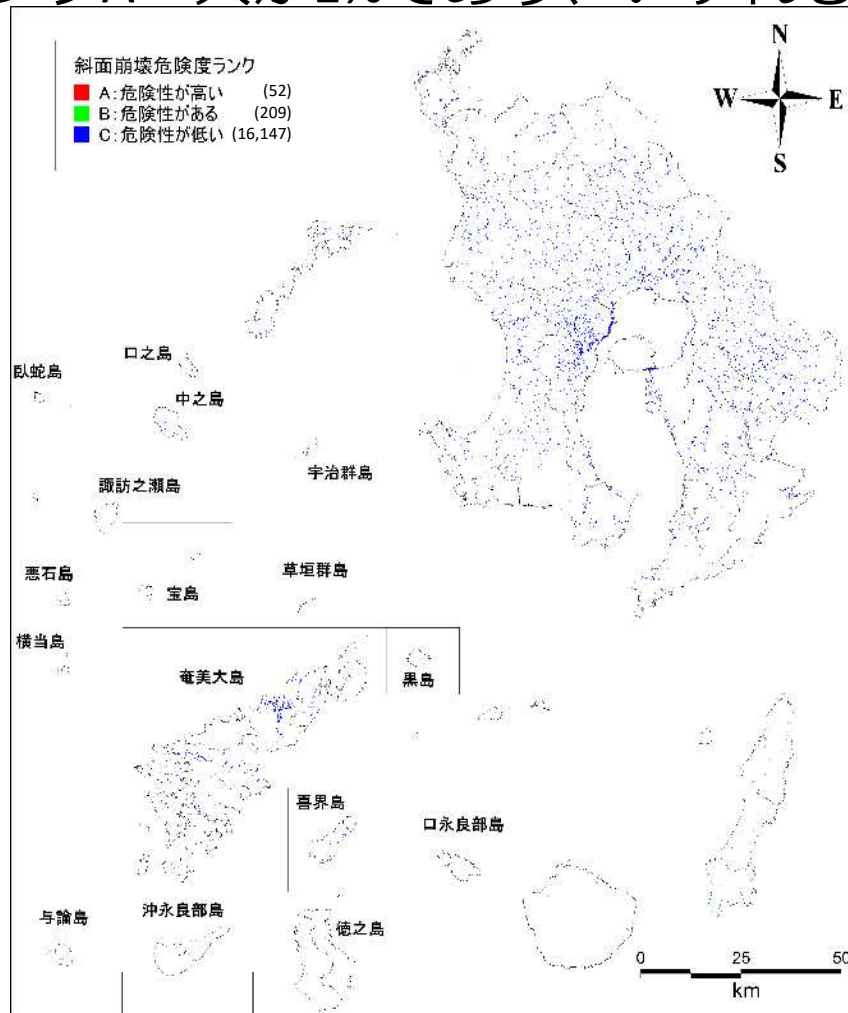
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区 (前回)



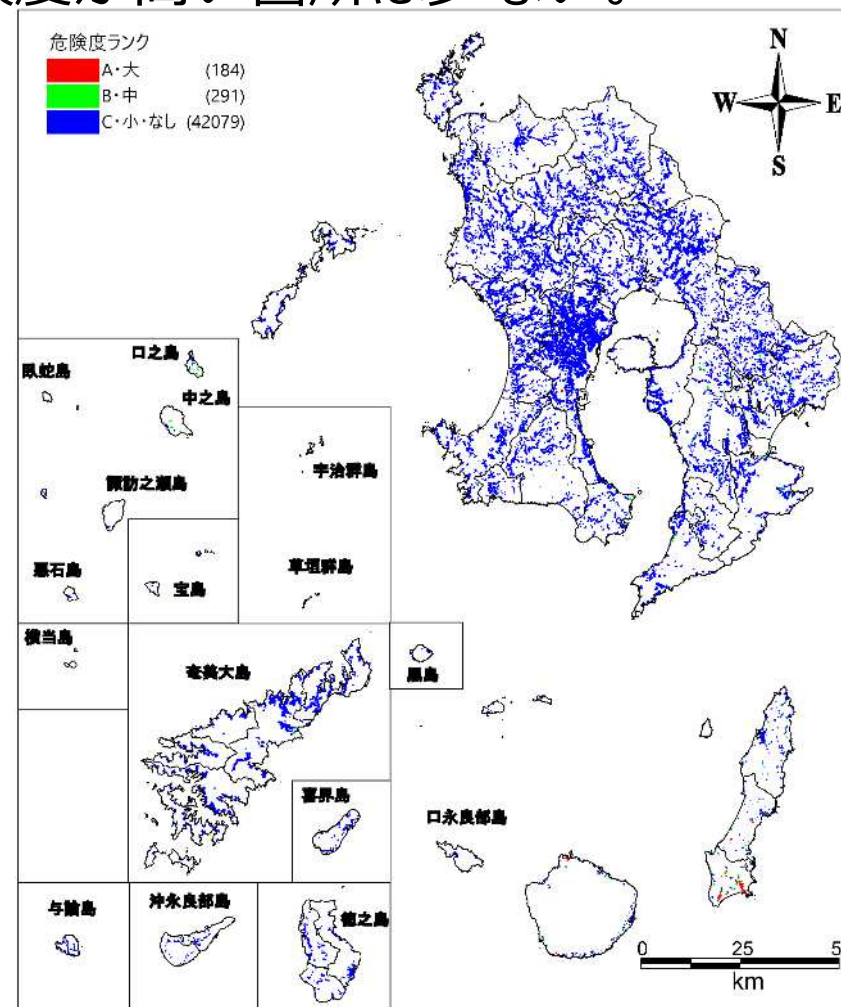
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑨トカラ列島太平洋沖の地震

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は0.3%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が1%であり、いずれも危険度が高い箇所は少ない。



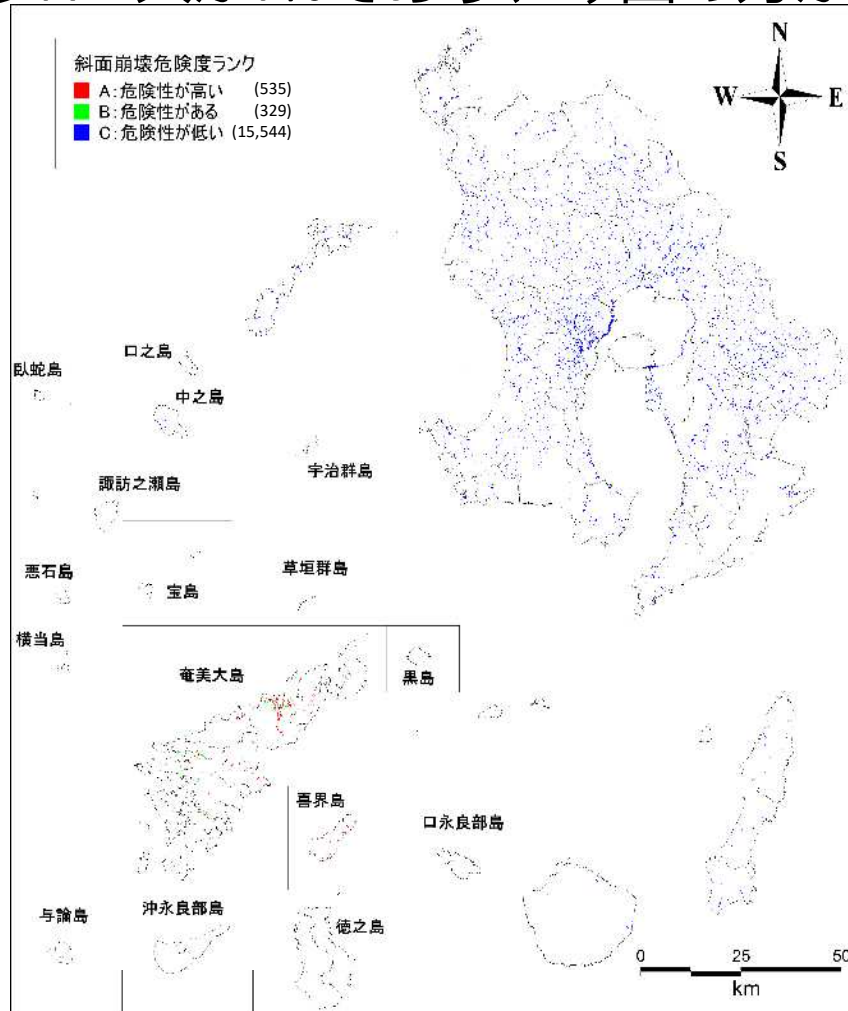
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区 (前回)



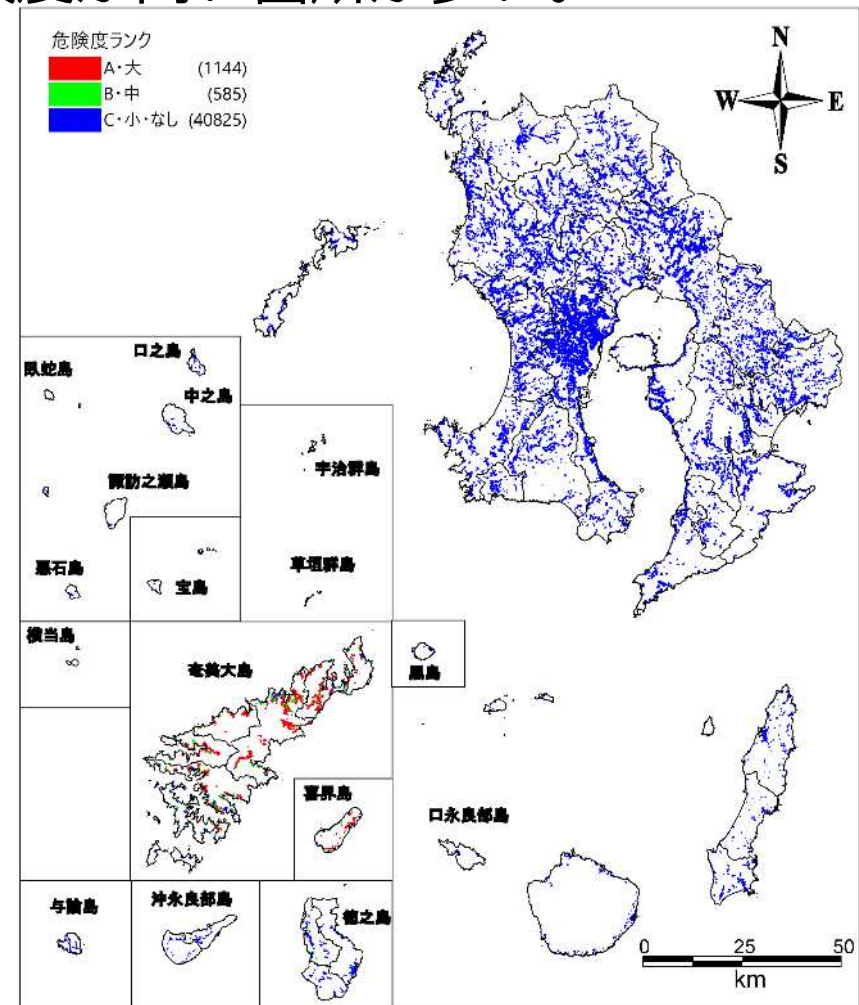
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ⑩奄美群島太平洋沖（北部）の地震

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は3%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が7%であり、今回の方が危険度が高い箇所が多い。



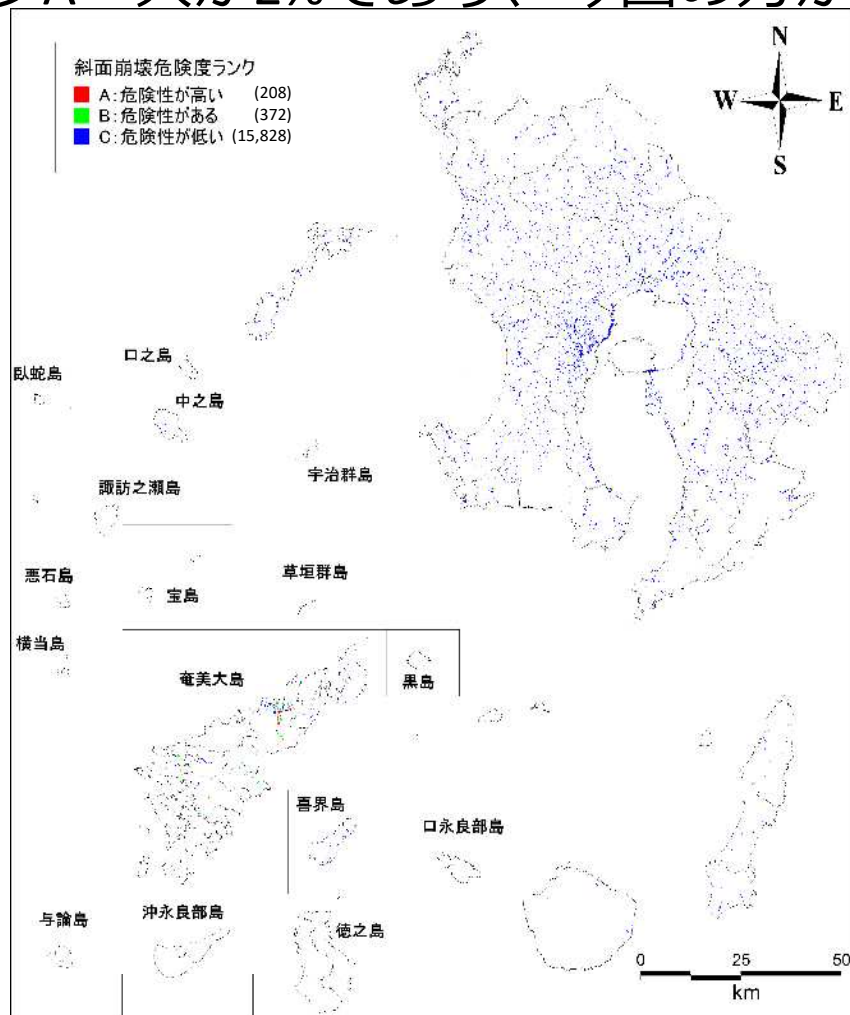
急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



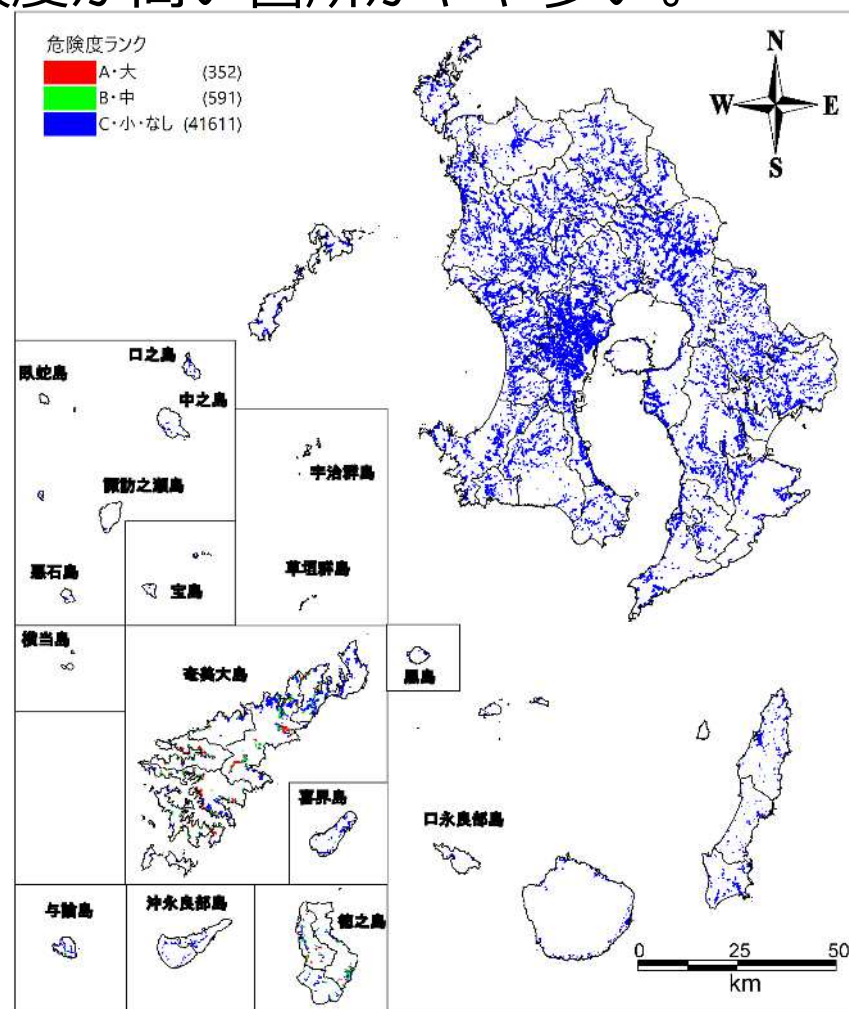
土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

6. 前回想定との比較 ①奄美群島太平洋沖（南部）の地震

- 前回想定の結果と比較した。評価手法が前回と一部異なるので直接的な比較は難しいが、前回は1%の箇所がAランクなのに対し、今回はランクA・大が2%であり、今回の方が危険度が高い箇所がやや多い。



急傾斜地崩壊危険箇所・山腹崩壊危険地区（前回）



土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）・山腹崩壊危険地区

参考資料 沈下量の比較

(参考) 沈下量の想定手法

- 沈下量の計算に用いる補正N値は、前回調査では道路橋示方書(2002)を用いた。
- 今回調査では、内閣府(2025)で使用されている亀井・他(2002)の手法を用いて補正N値を計算。
- 内閣府(2025)の手法による沈下量は、道路橋示方書(2002)に比べ小さくなる傾向。

補正N値の計算手法		結果の傾向
前回調査	道路橋示方書(2002)より計算	沈下量が大きくなりやすい
今回調査	内閣府(2025)を参考に計算	道路橋示方書(2002)に比べ小さくなりやすい

道路橋示方書(2002)の補正N値の式: 前回調査

<砂質土の場合>

$$N_a = c_1 N_1 + c_2$$

$$N_1 = 170N / (\sigma v' + 70)$$

$$c_1 = \begin{cases} 1 & (0\% \leq FC < 10\%) \\ (FC + 40) / 50 & (10\% \leq FC < 60\%) \\ FC / 20 - 1 & (60\% \leq FC) \end{cases}$$

$$c_2 = \begin{cases} 0 & (0\% \leq FC < 10\%) \\ (FC - 10) / 18 & (10\% \leq FC) \end{cases}$$

N: 標準貫入試験から得られるN値
 N₁: 有効上載圧100kN/m²相当に換算したN値
 N_a: 粒度の影響を考慮した補正N値
 c₁, c₂: 細粒分含有率によるN値の補正係数
 FC: 細粒分含有率(%) (粒径75μm以下の土粒子の通過質量百分率)

内閣府(2025)で使用されている亀井・他(2002)の補正N値の式: 今回調査

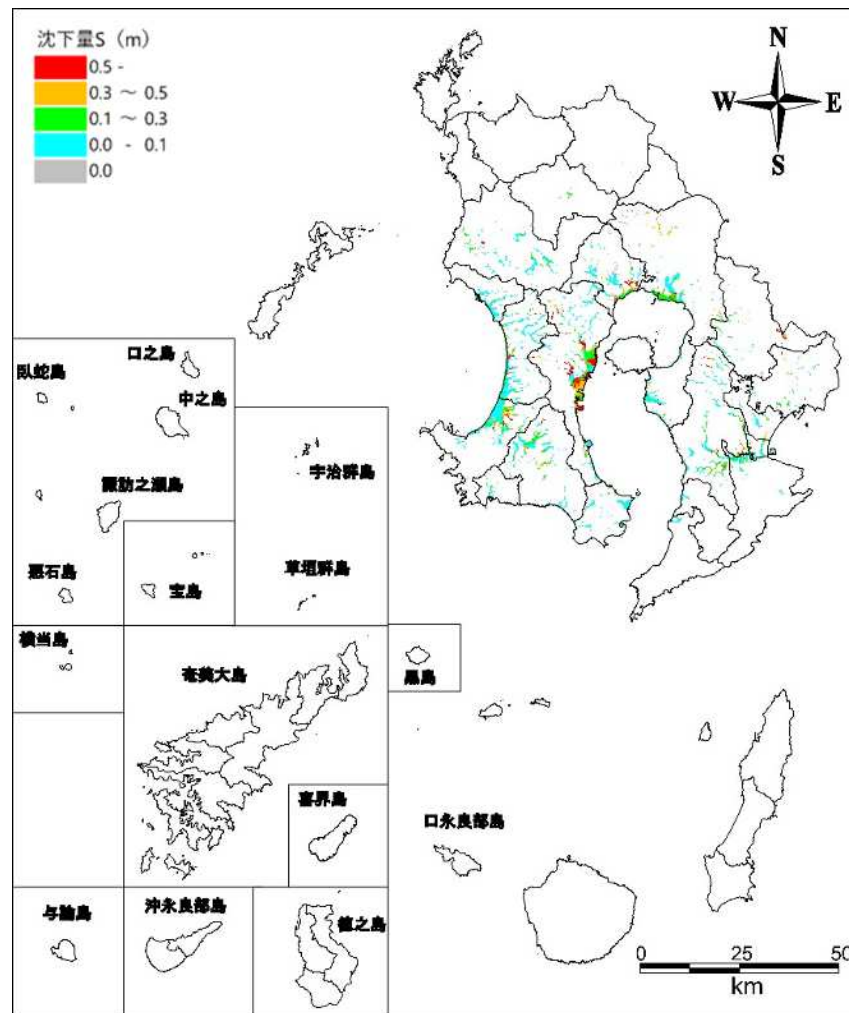
補正N値ΔN

$$\Delta N = \begin{cases} 0 & (FC < 8\%) \\ 20.769 \times \log_{10}(FC) - 18 & (8\% \leq FC < 40\%) \\ 15.27 & (FC \geq 40\%) \end{cases}$$

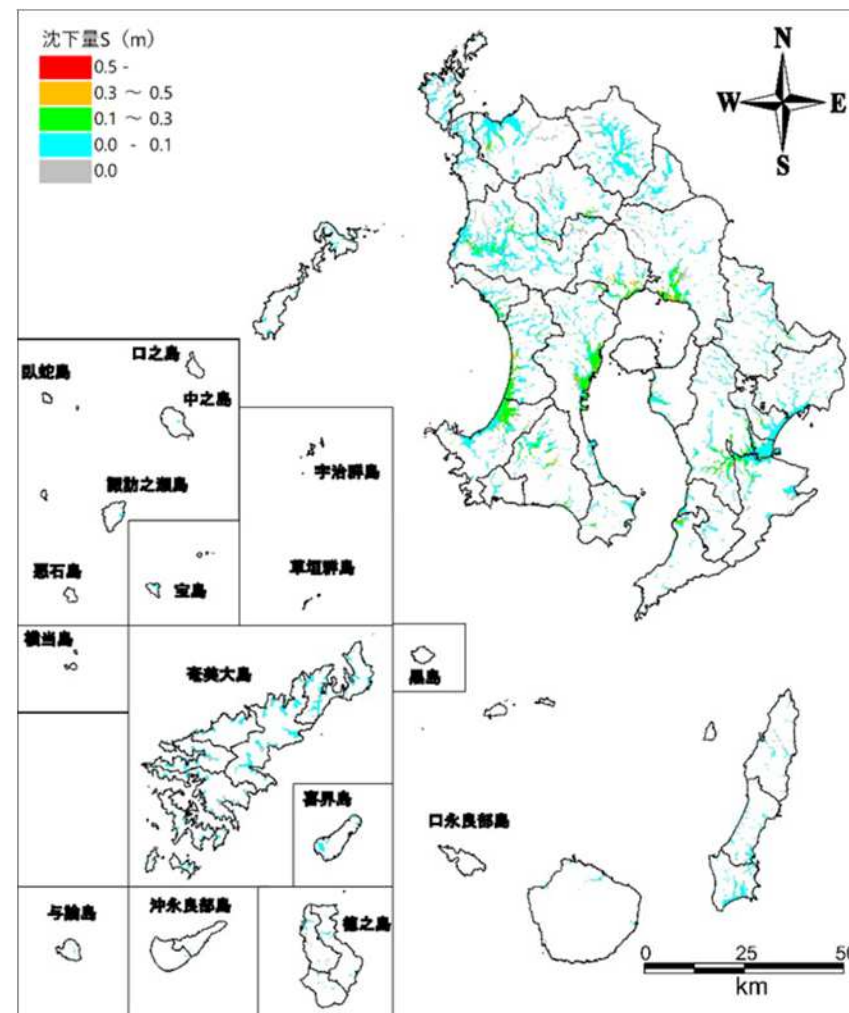
ΔN: 補正N値

(参考) 前回想定との比較 (鹿児島湾直下の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



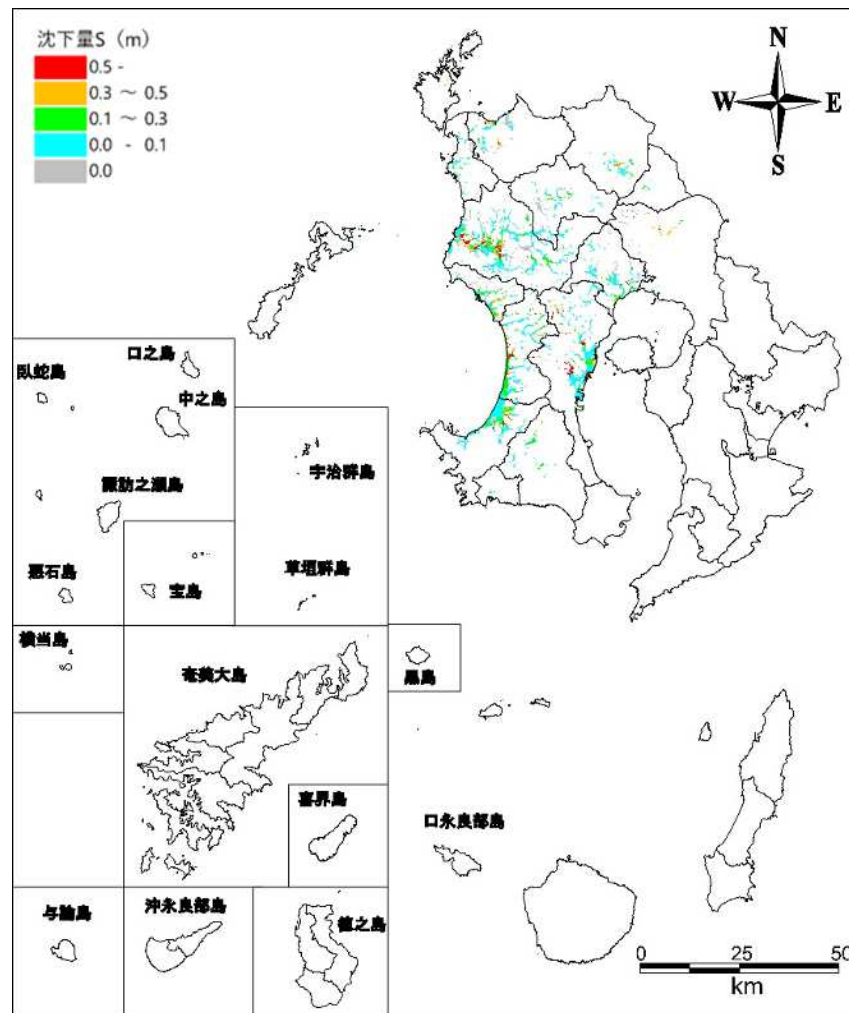
沈下量 (前回想定)



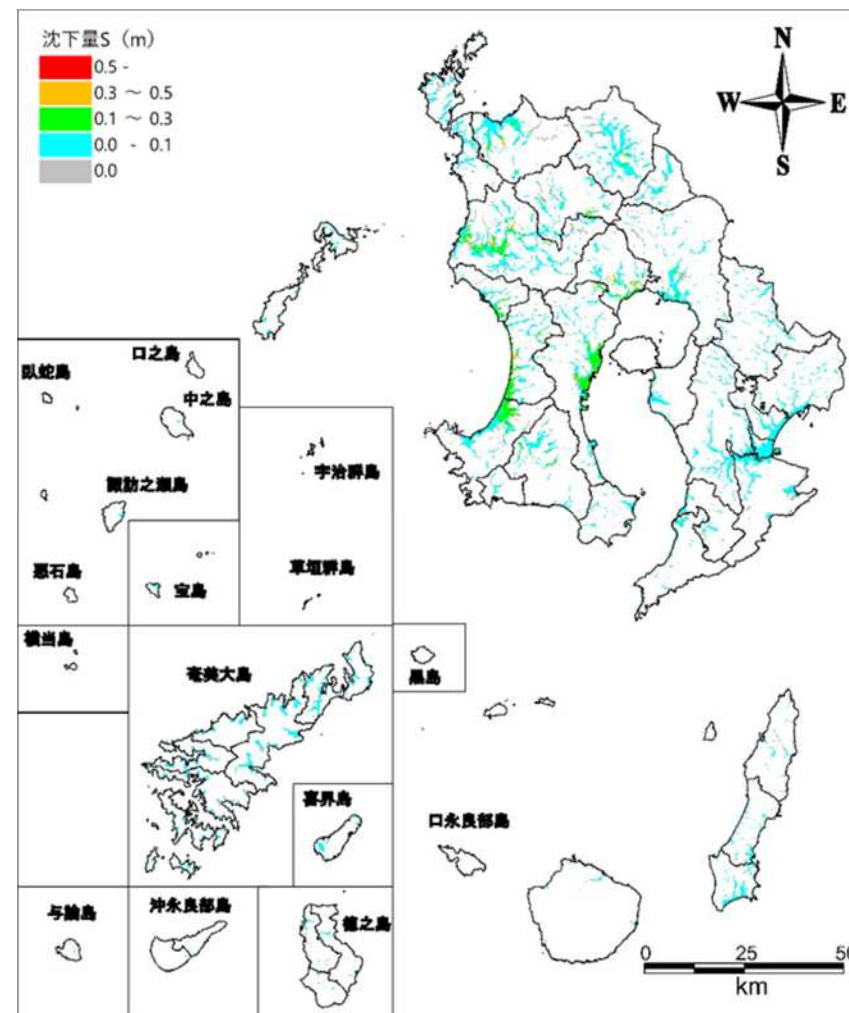
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (県西部直下の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



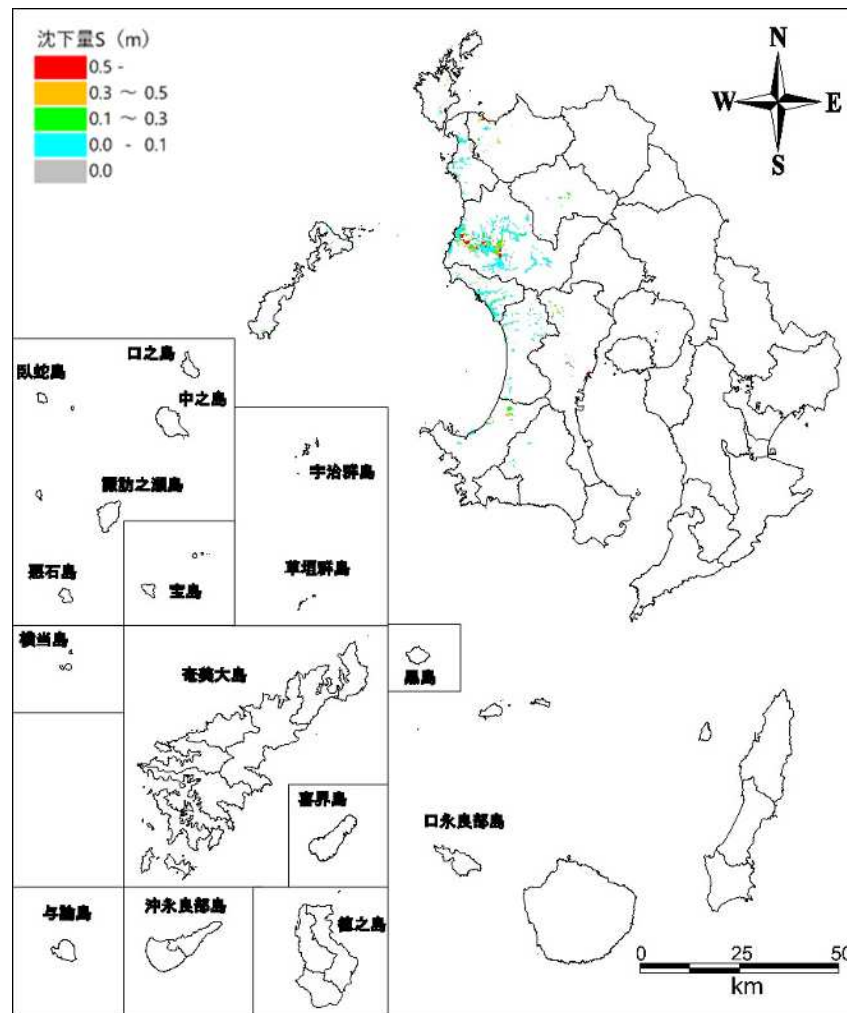
沈下量 (前回想定)



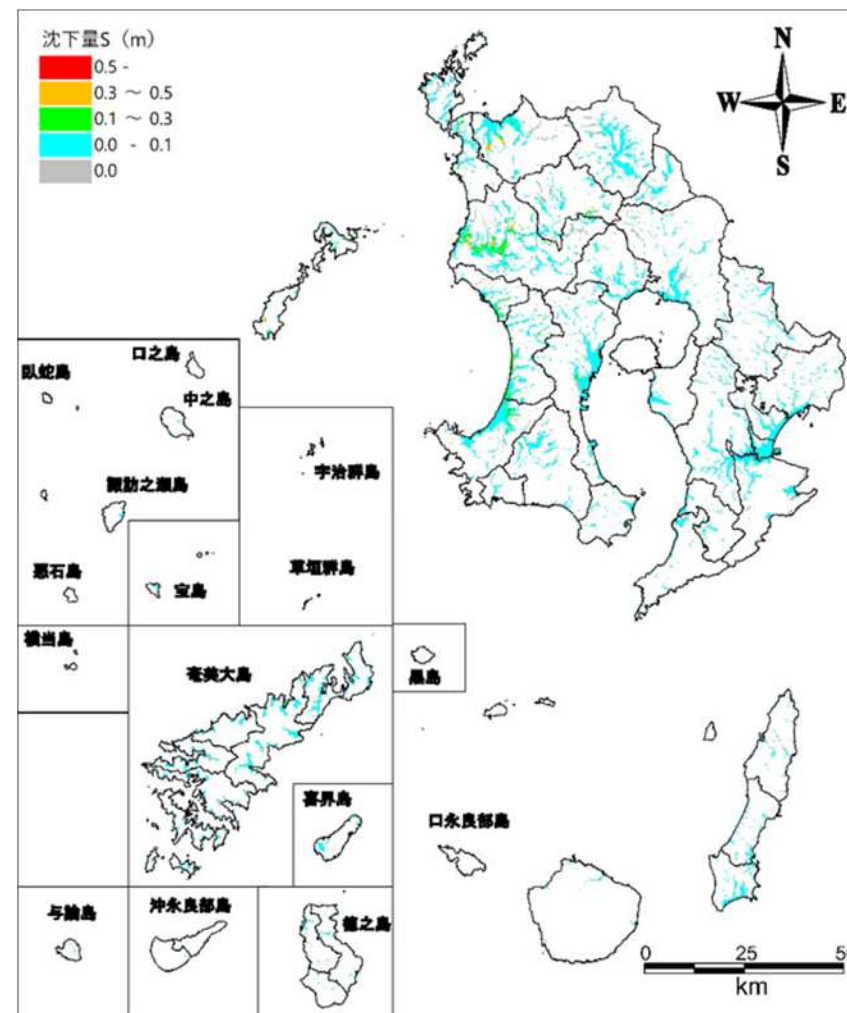
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (甬島列島東方沖の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



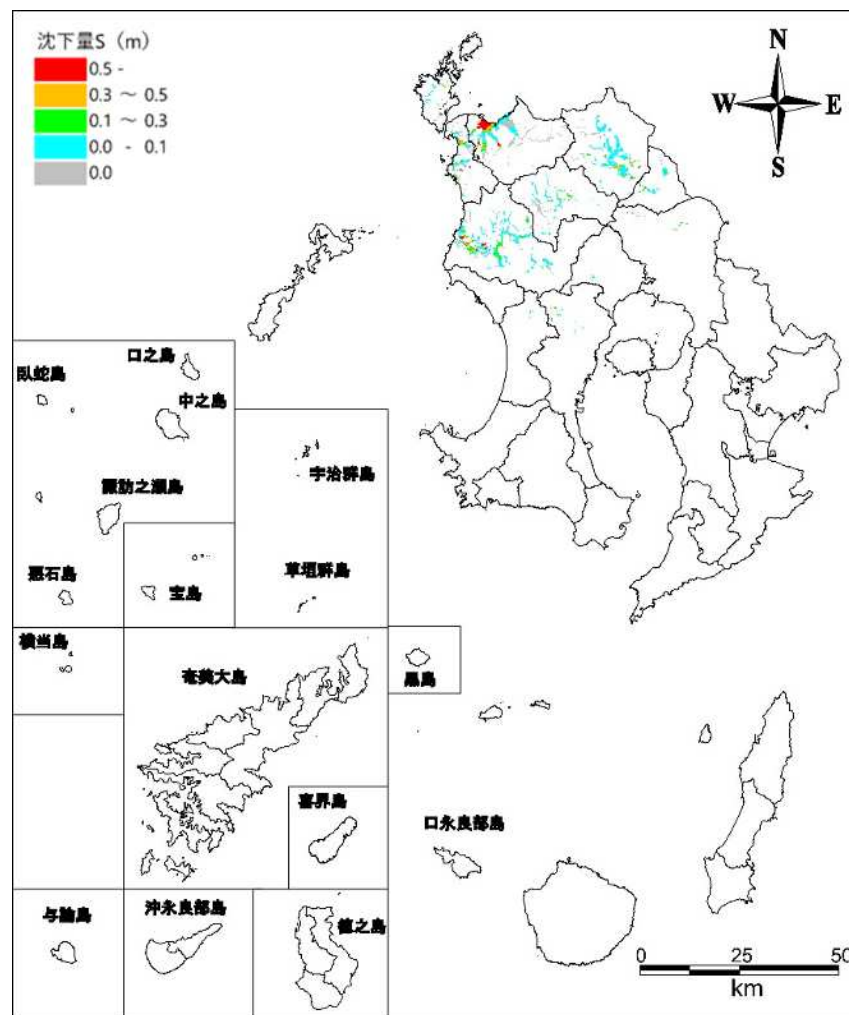
沈下量 (前回想定)



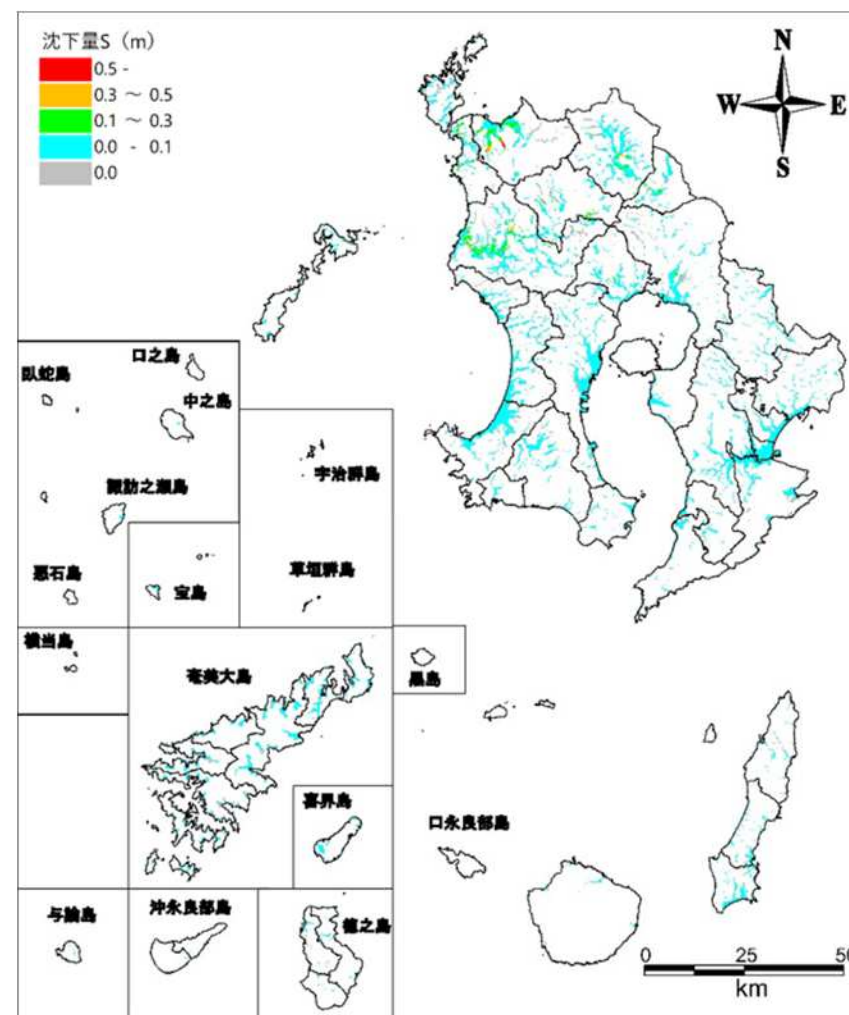
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (県北西部直下の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



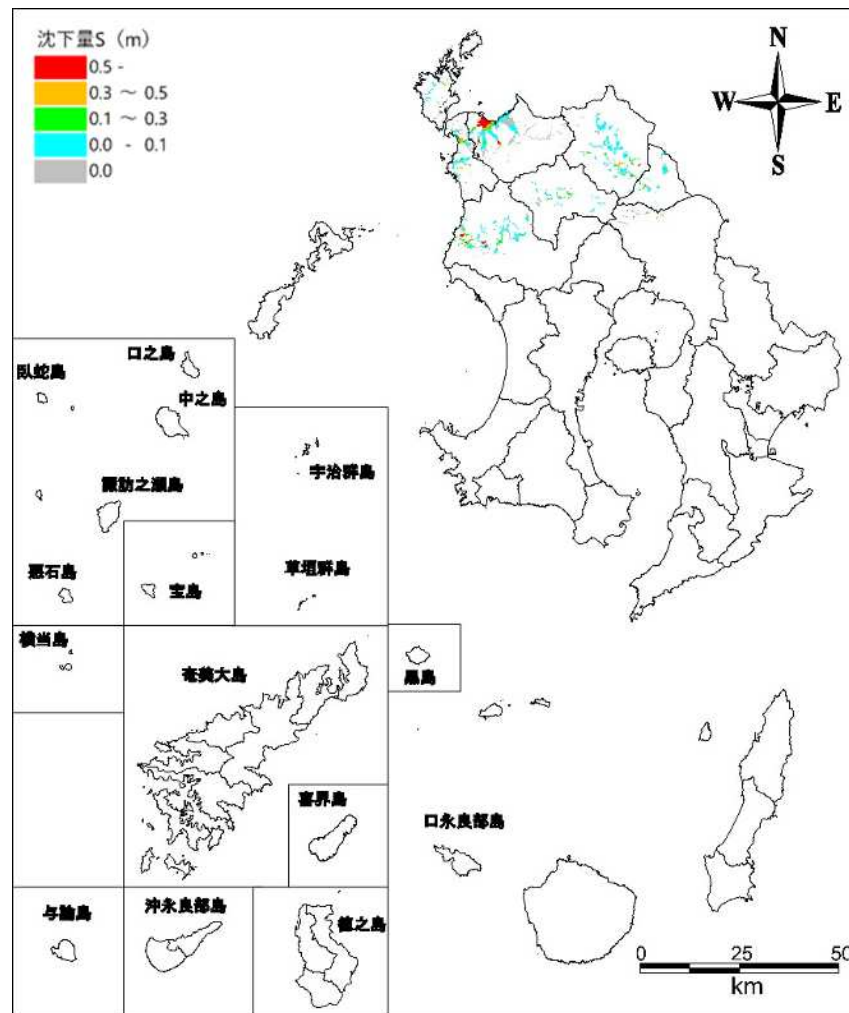
沈下量 (前回想定)



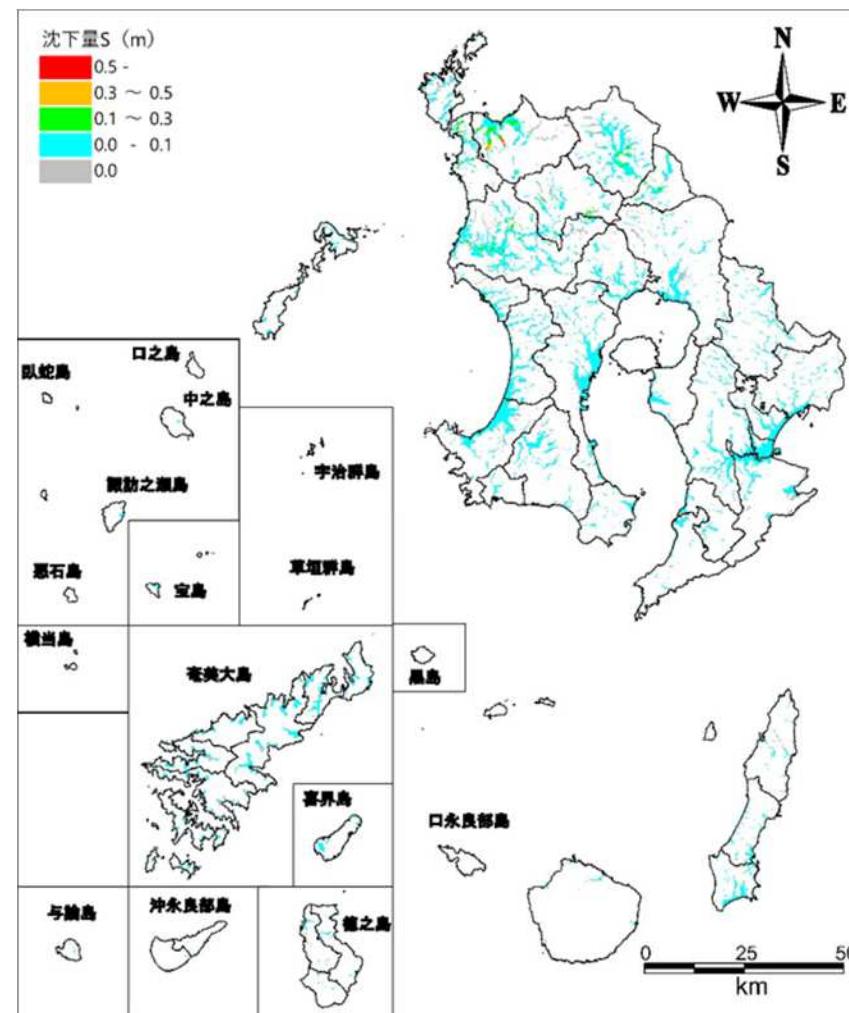
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (熊本県南部の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



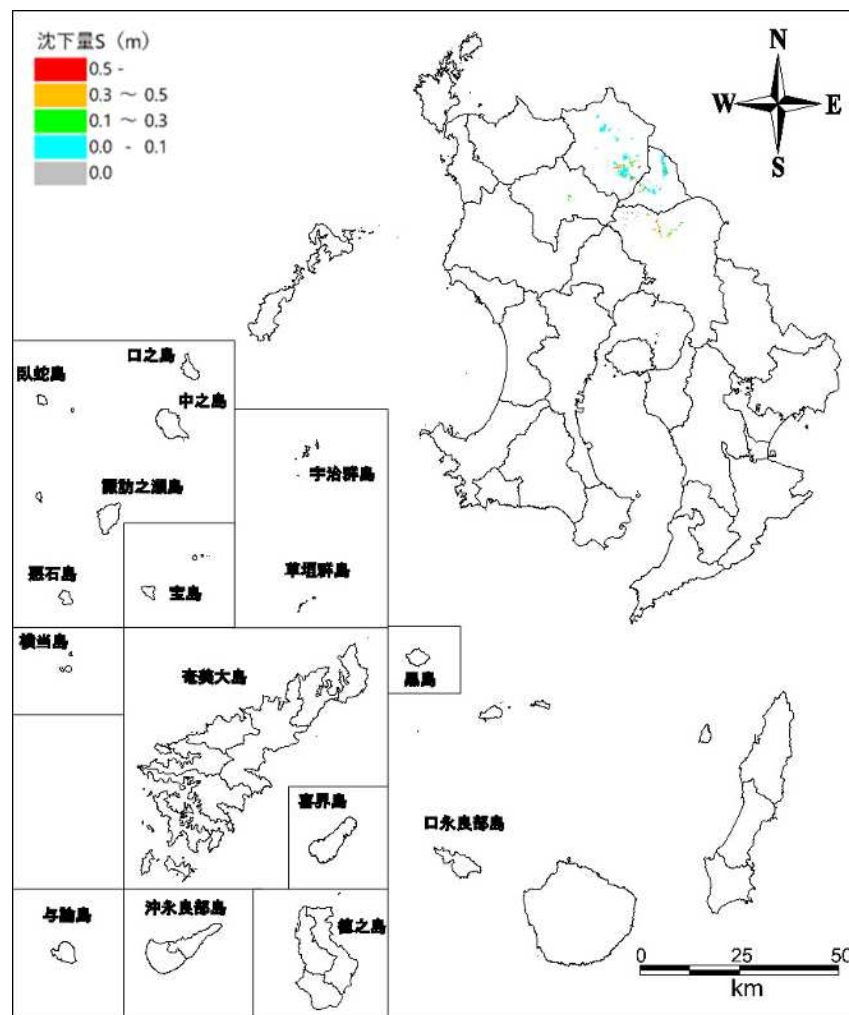
沈下量 (前回想定)



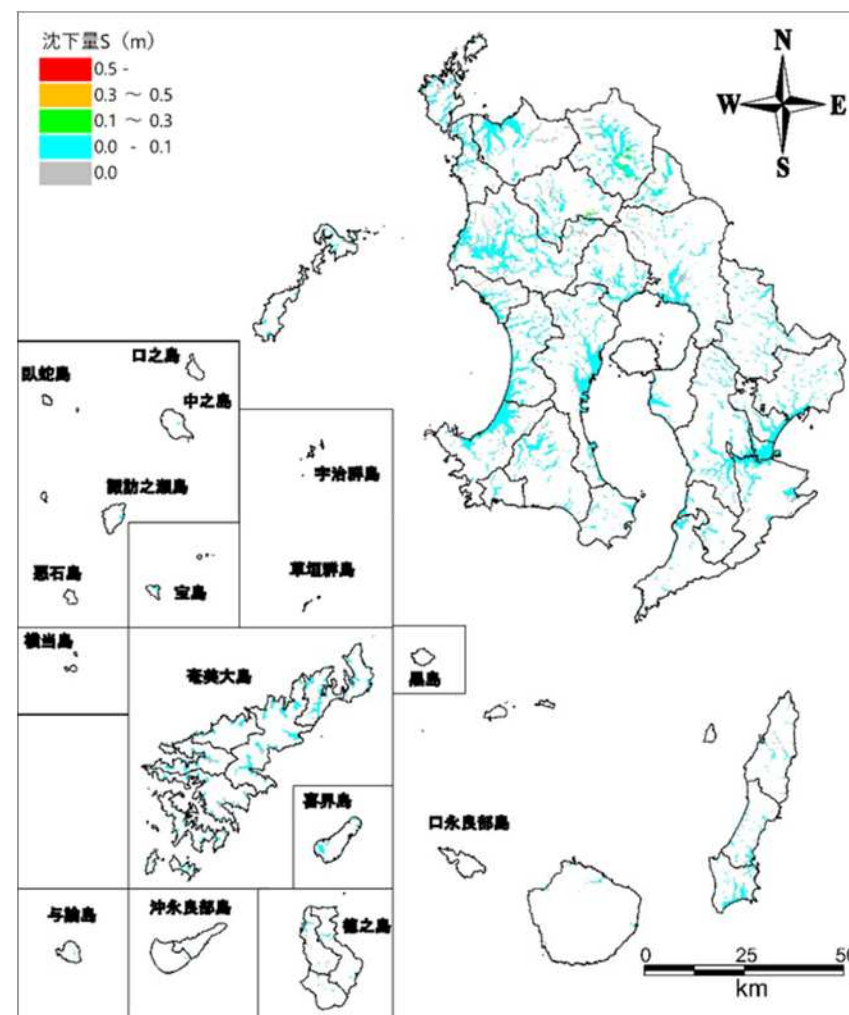
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (県北部直下の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



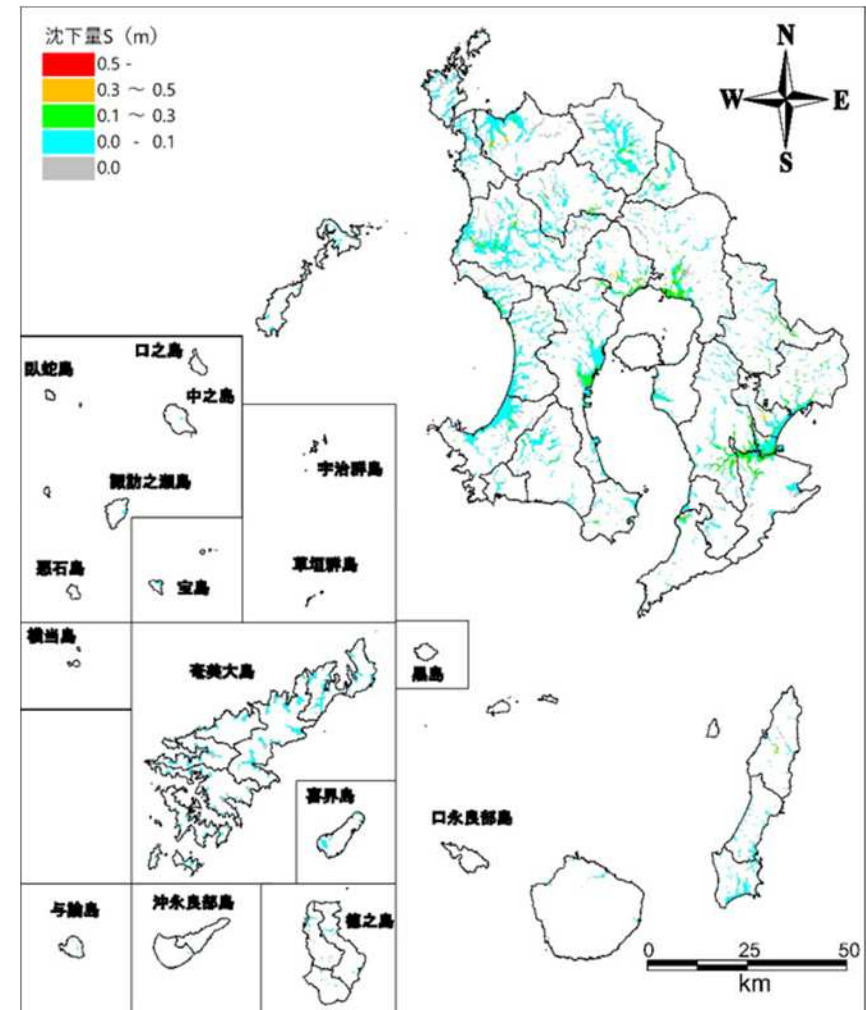
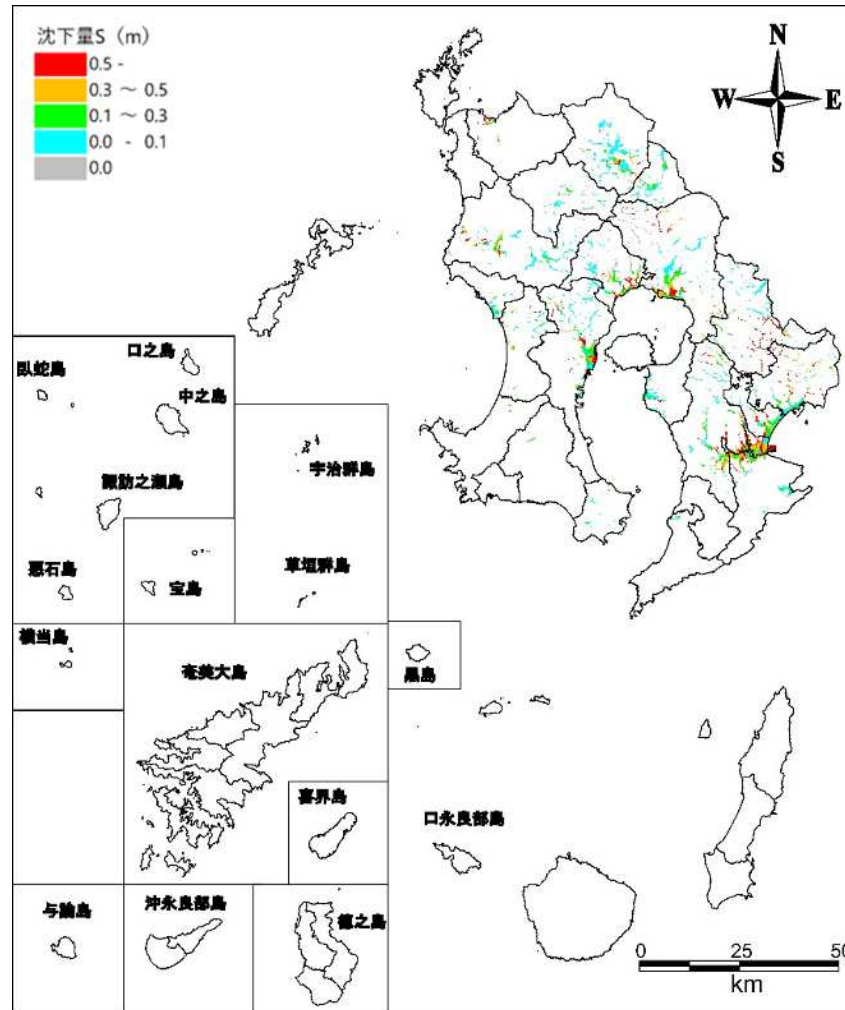
沈下量 (前回想定)



沈下量 (今回想定)

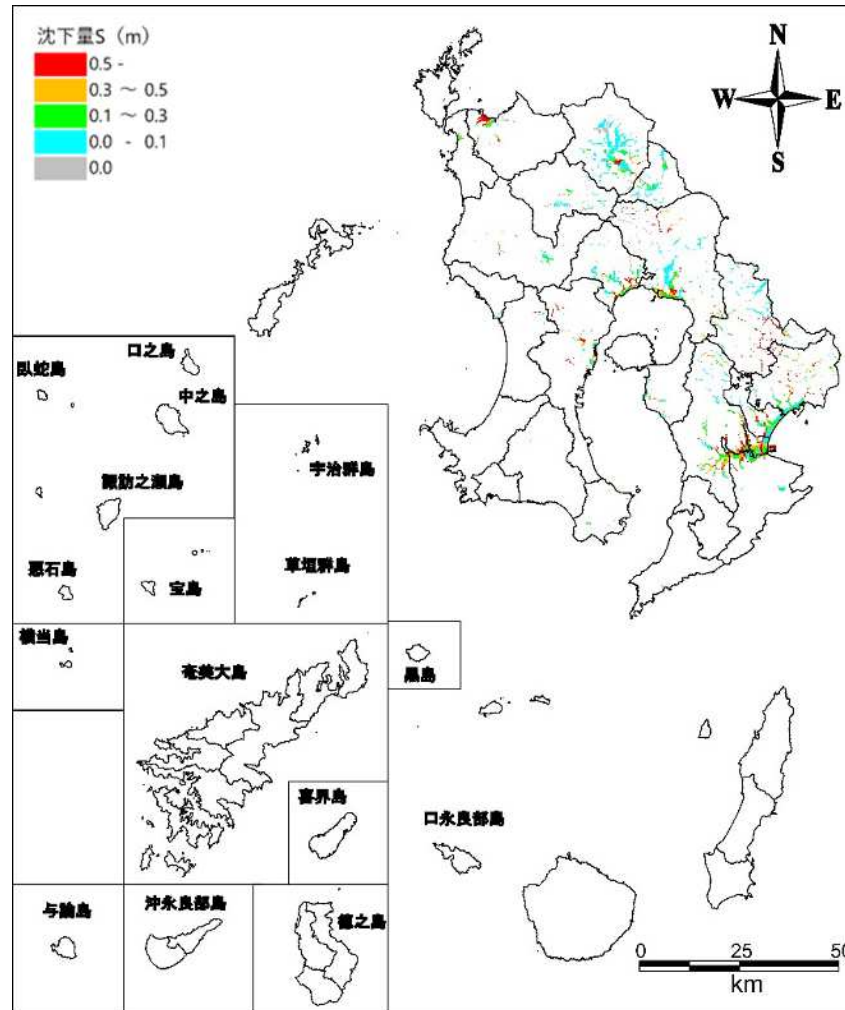
(参考) 前回想定との比較 (南海トラフ (最大クラス: 基本))

- 要因: 補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査: 震度5弱以上のみ計算対象

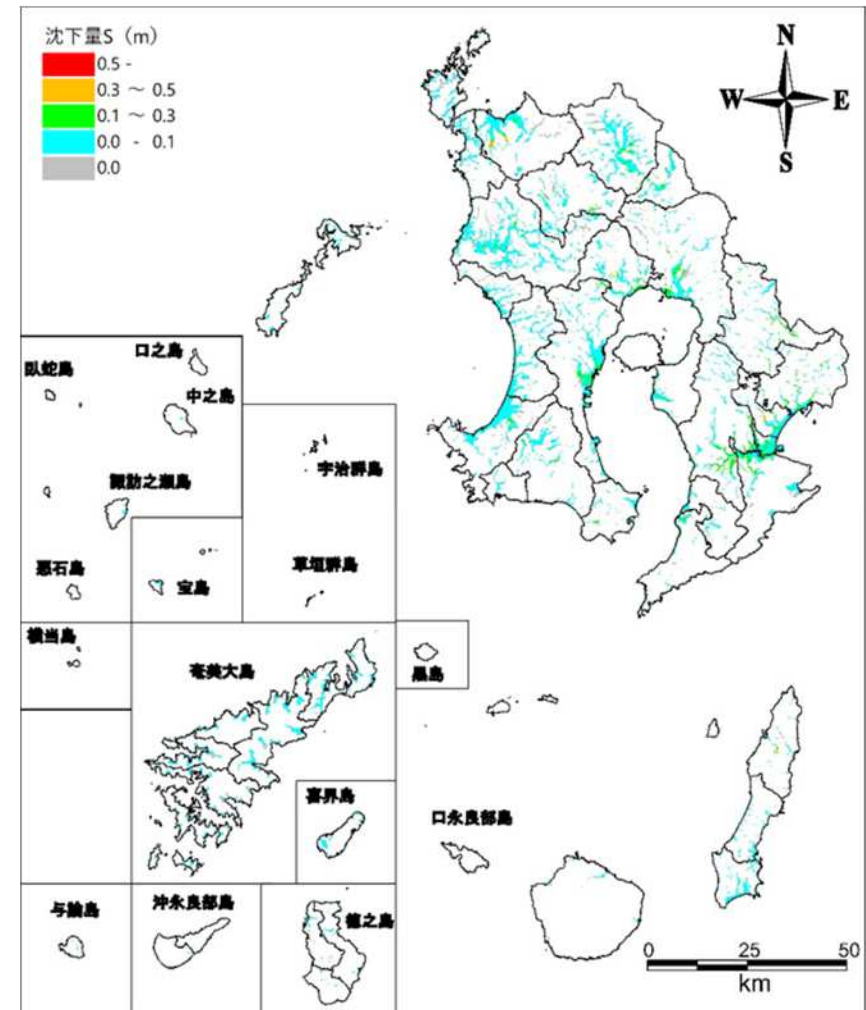


(参考) 前回想定との比較 (南海トラフ (最大クラス: 東側))

- 要因: 補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査: 震度5弱以上のみ計算対象



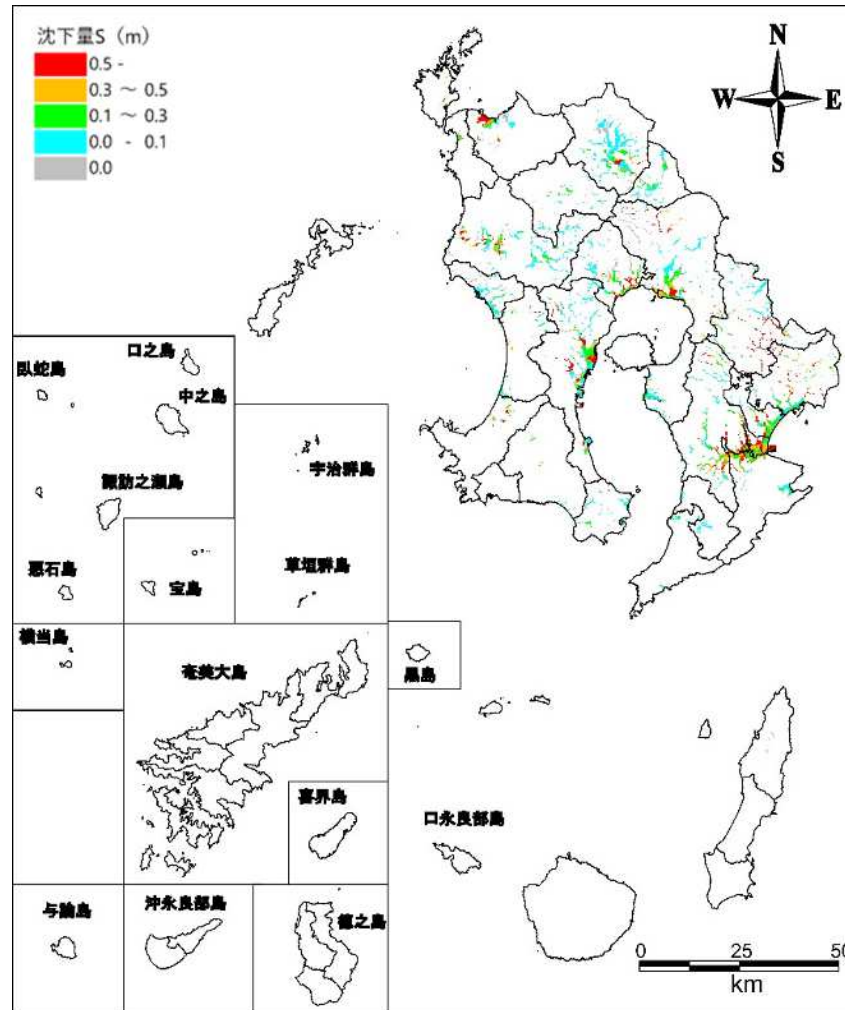
沈下量 (前回想定)



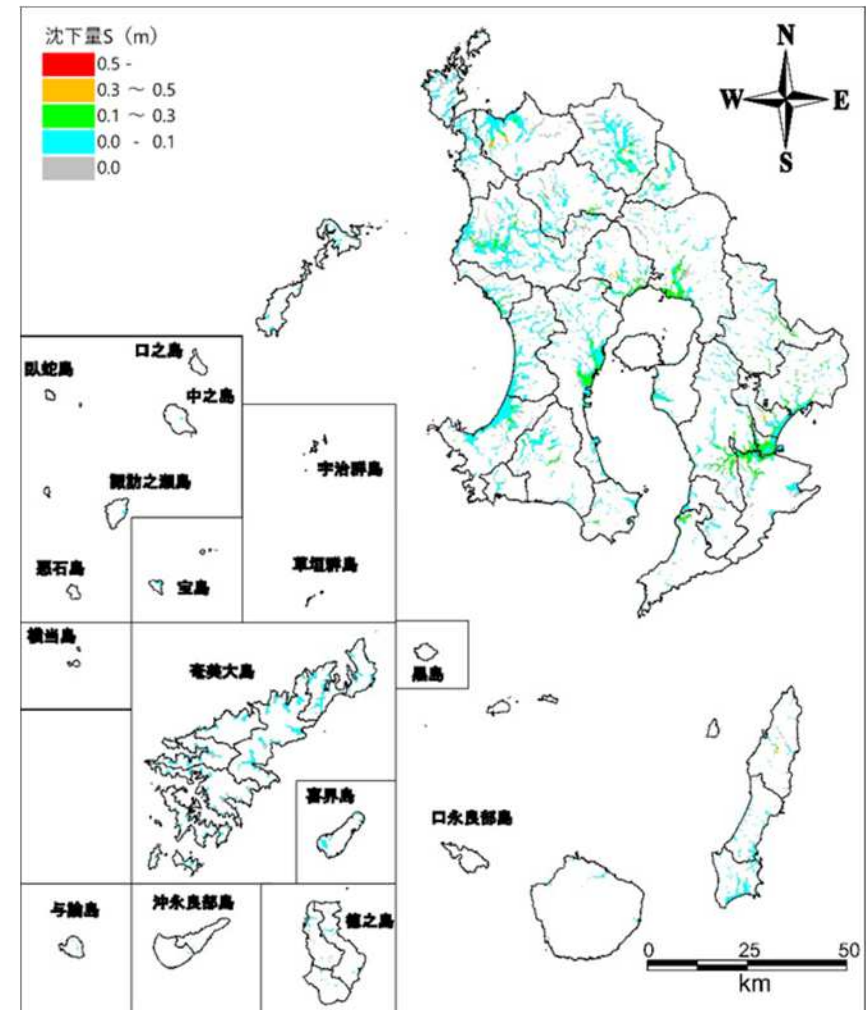
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (南海トラフ (最大クラス: 西側))

- 要因: 補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査: 震度5弱以上のみ計算対象



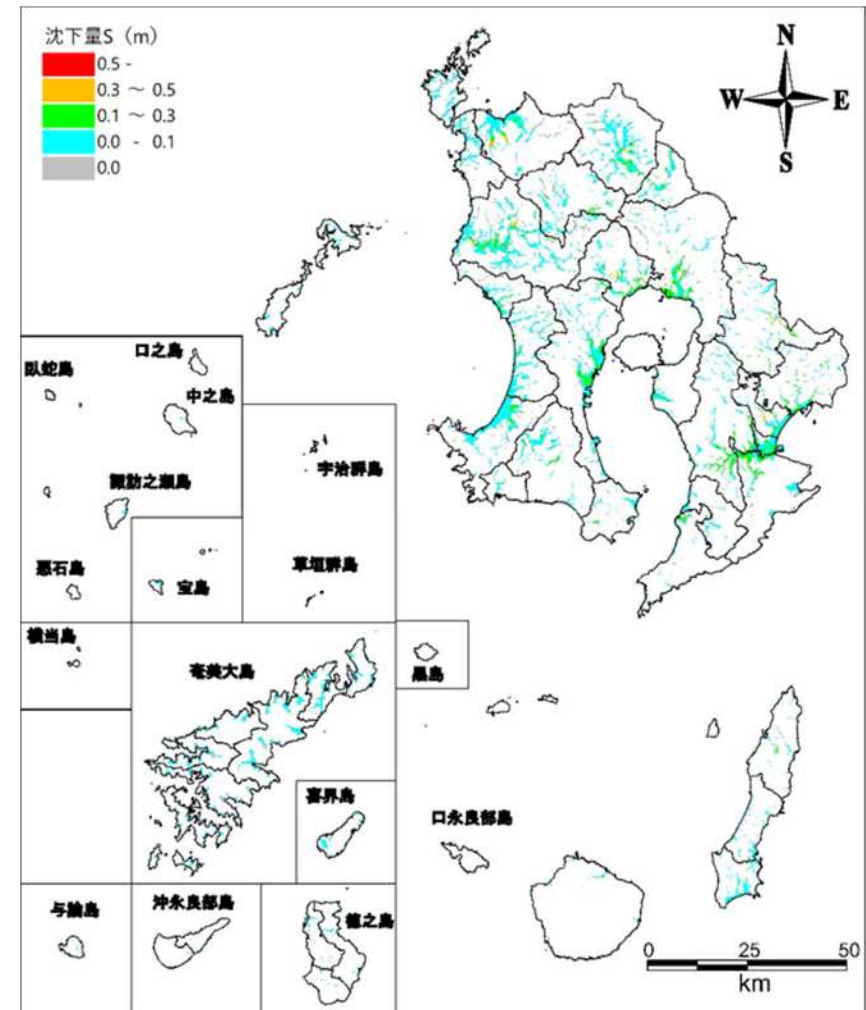
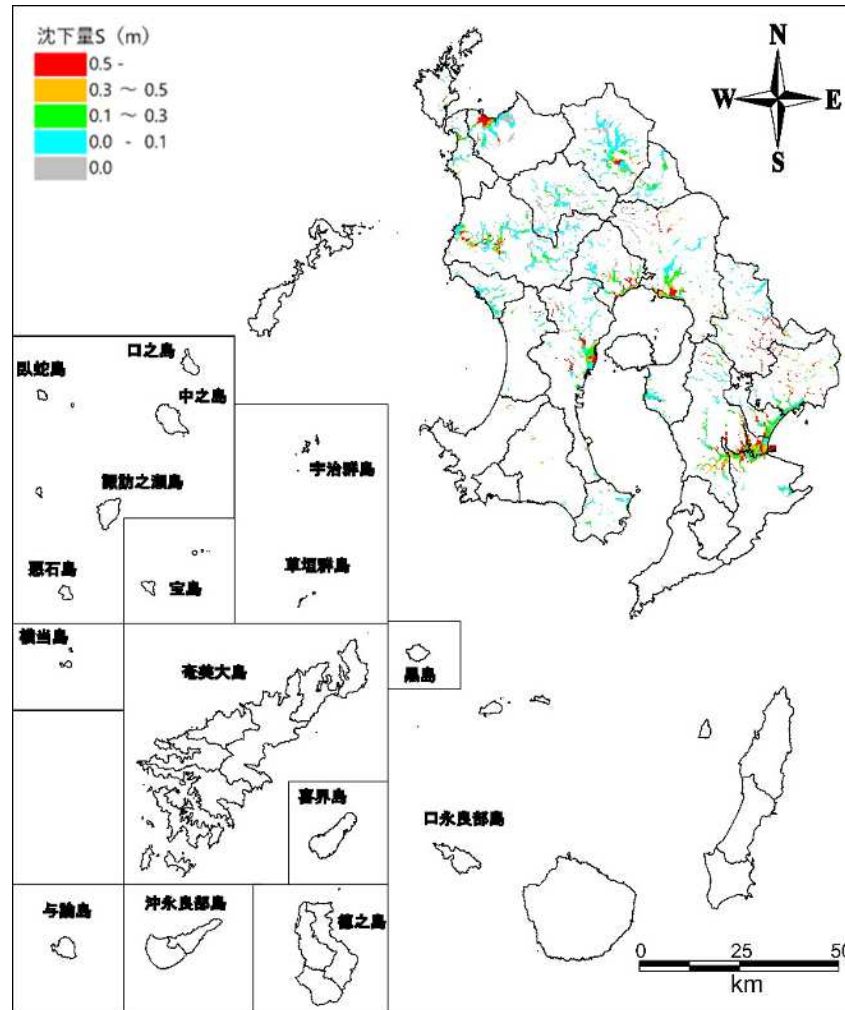
沈下量 (前回想定)



沈下量 (今回想定)

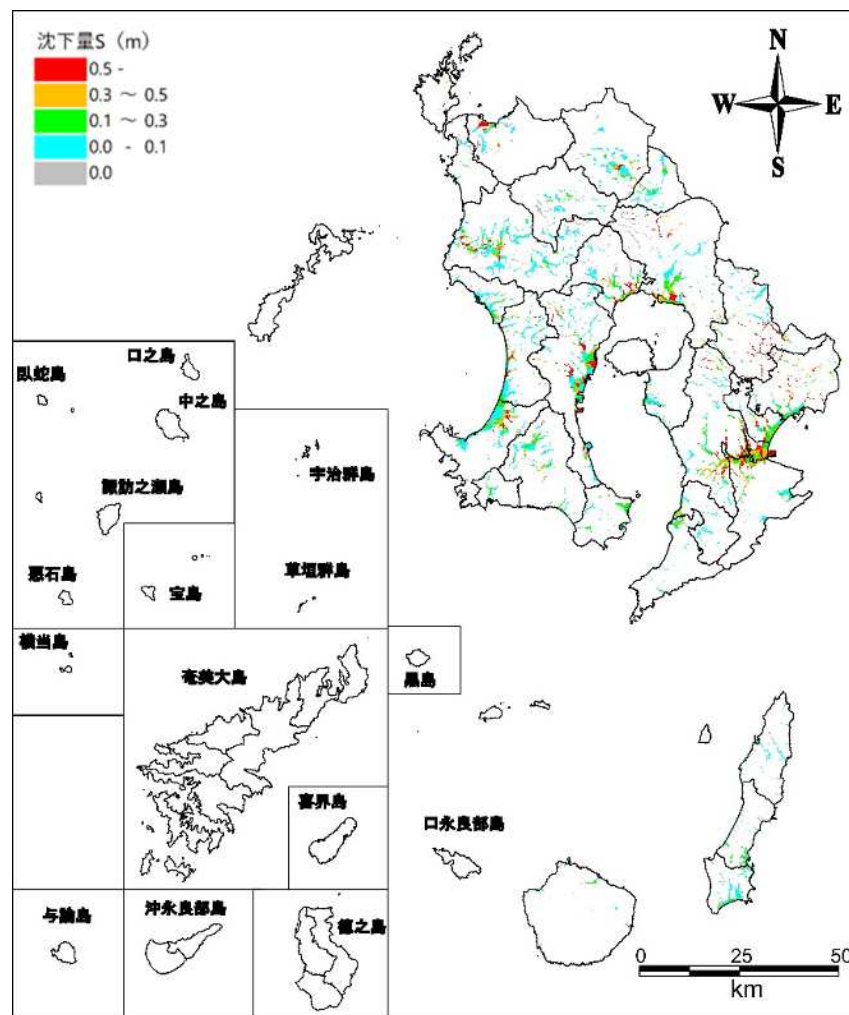
(参考) 前回想定との比較 (南海トラフ (最大クラス: 陸側))

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象

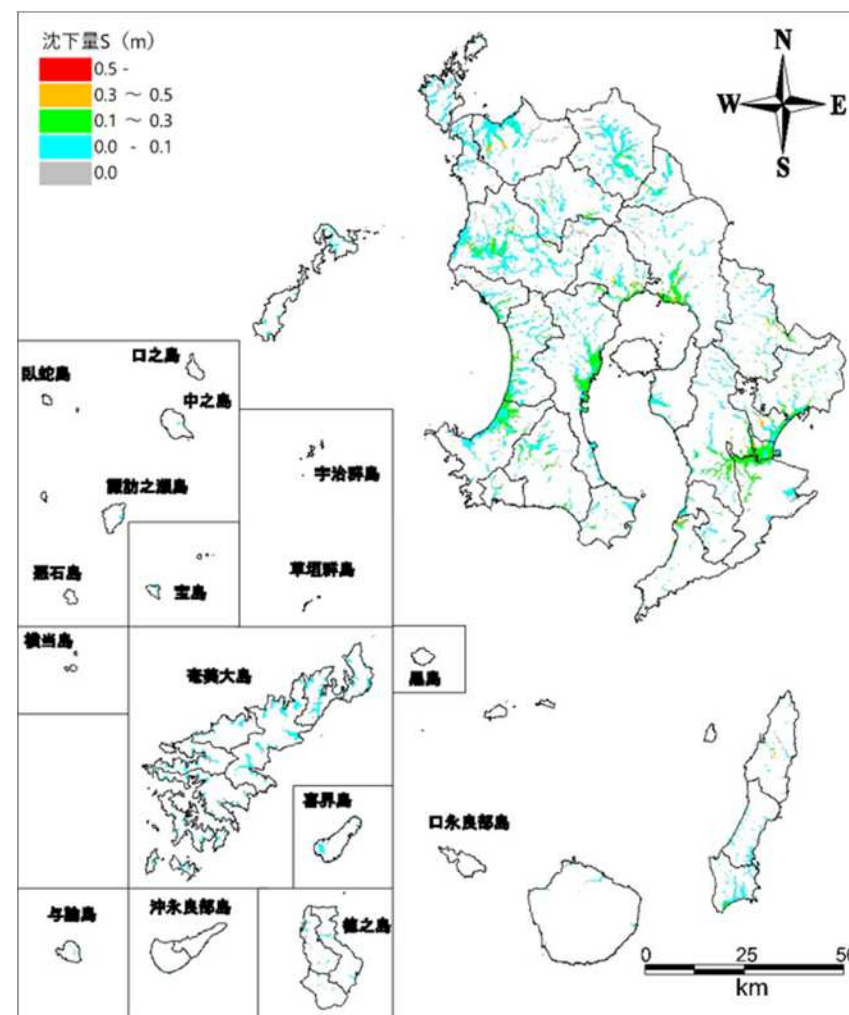


(参考) 前回想定との比較 (種子島東方沖の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



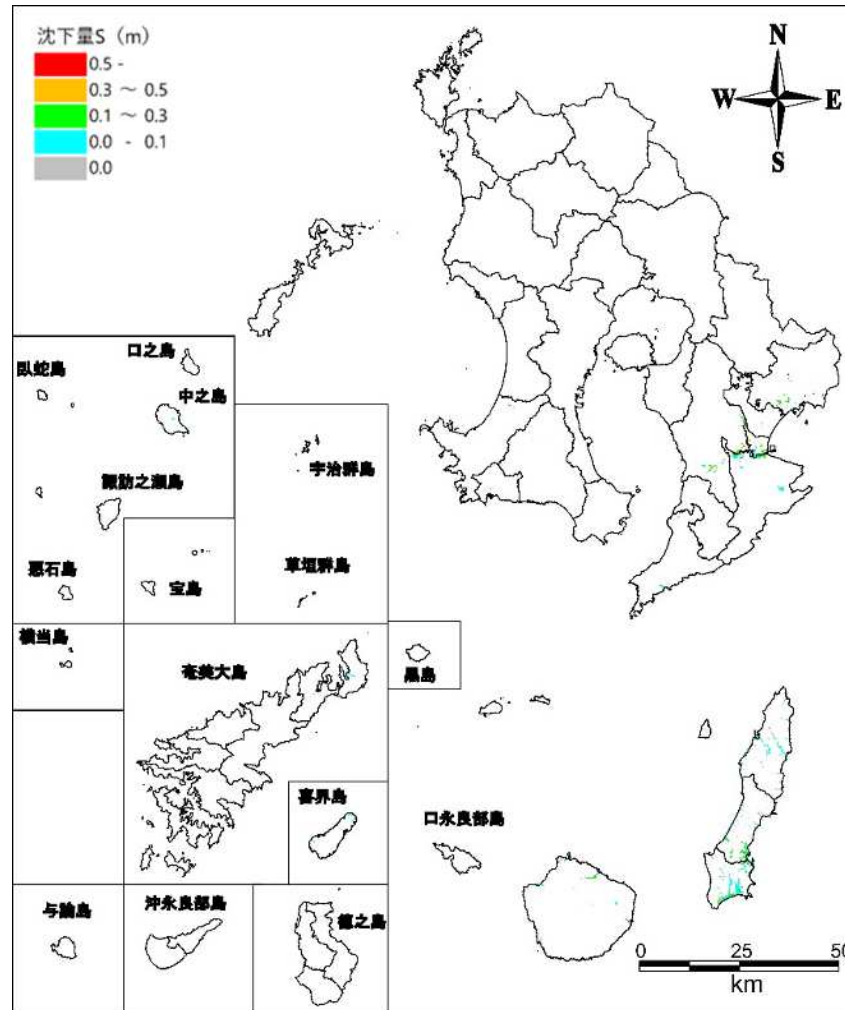
沈下量 (前回想定)



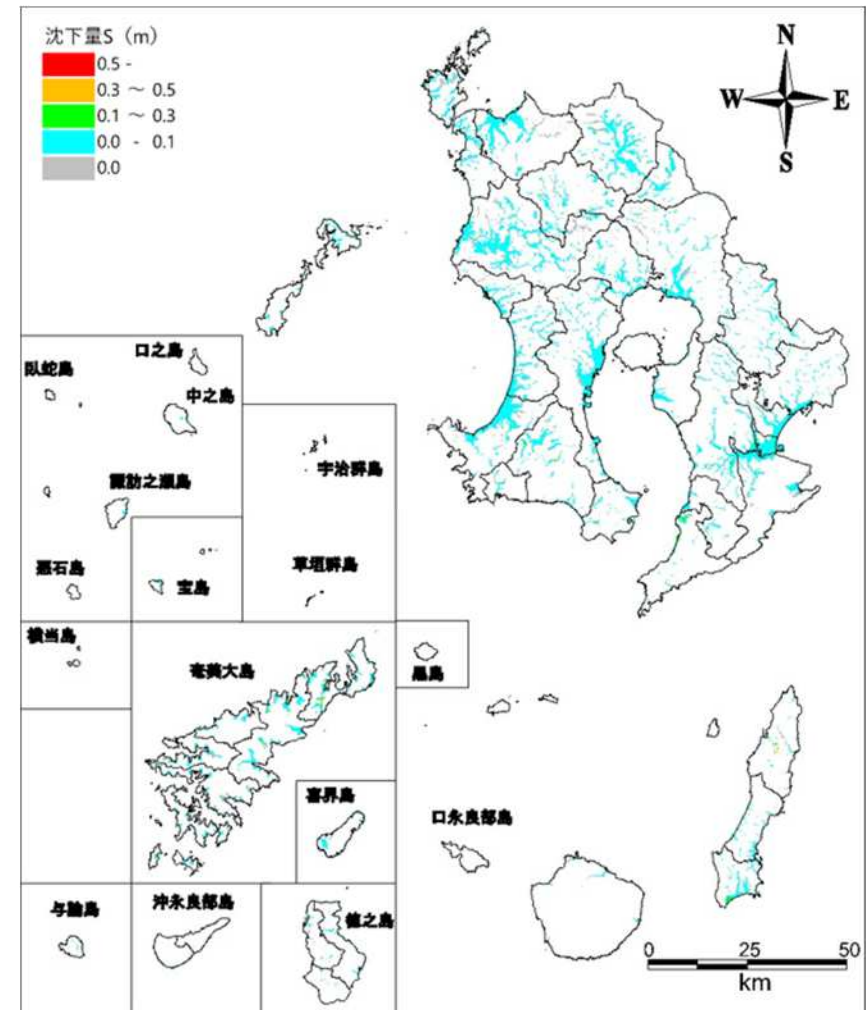
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (トカラ列島太平洋沖の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



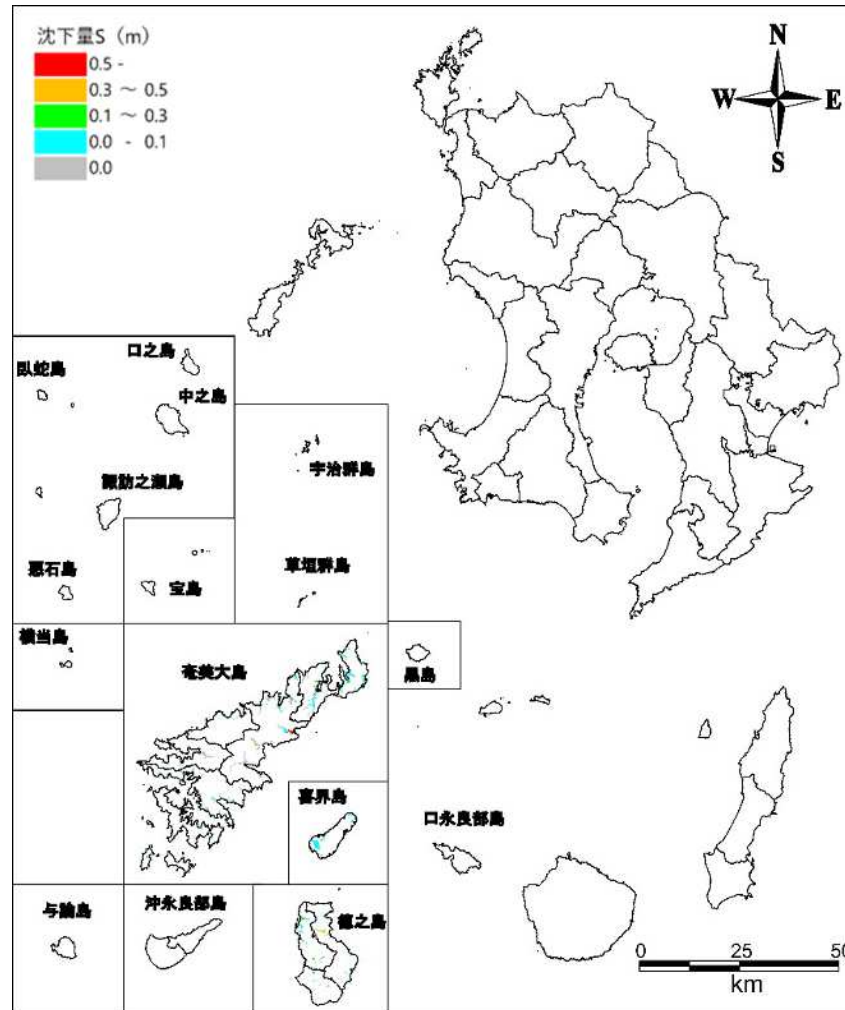
沈下量 (前回想定)



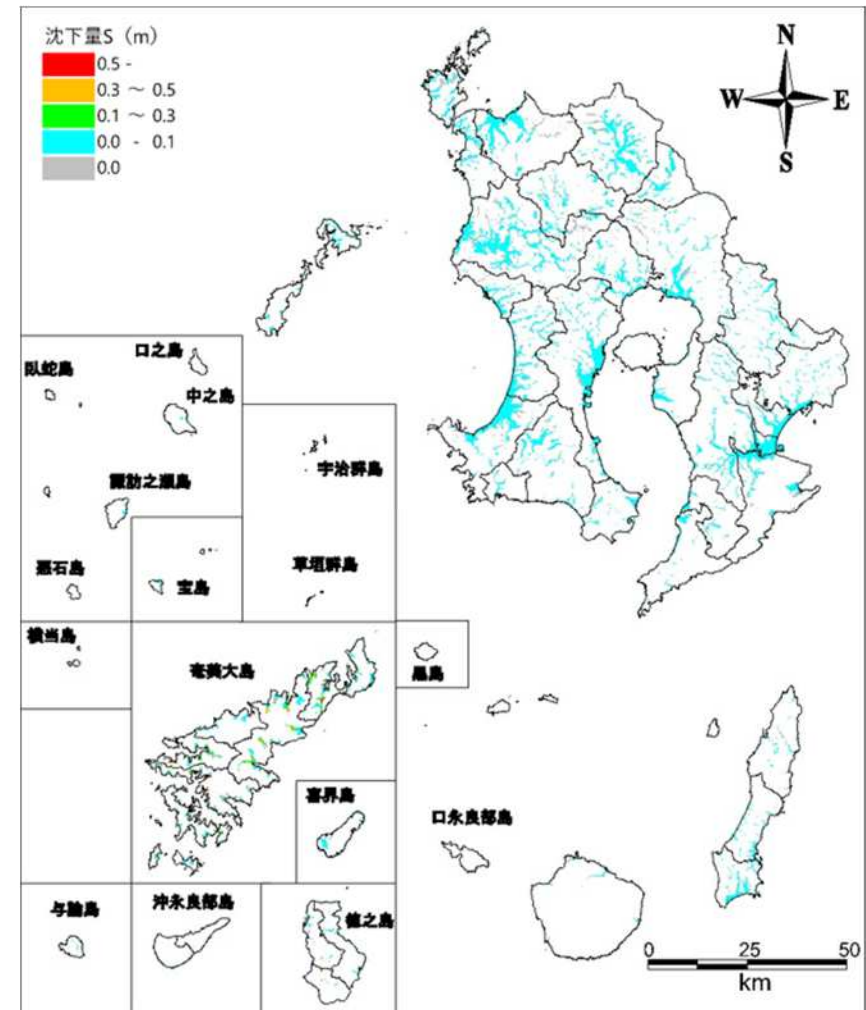
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (奄美群島太平洋沖 (北部) の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



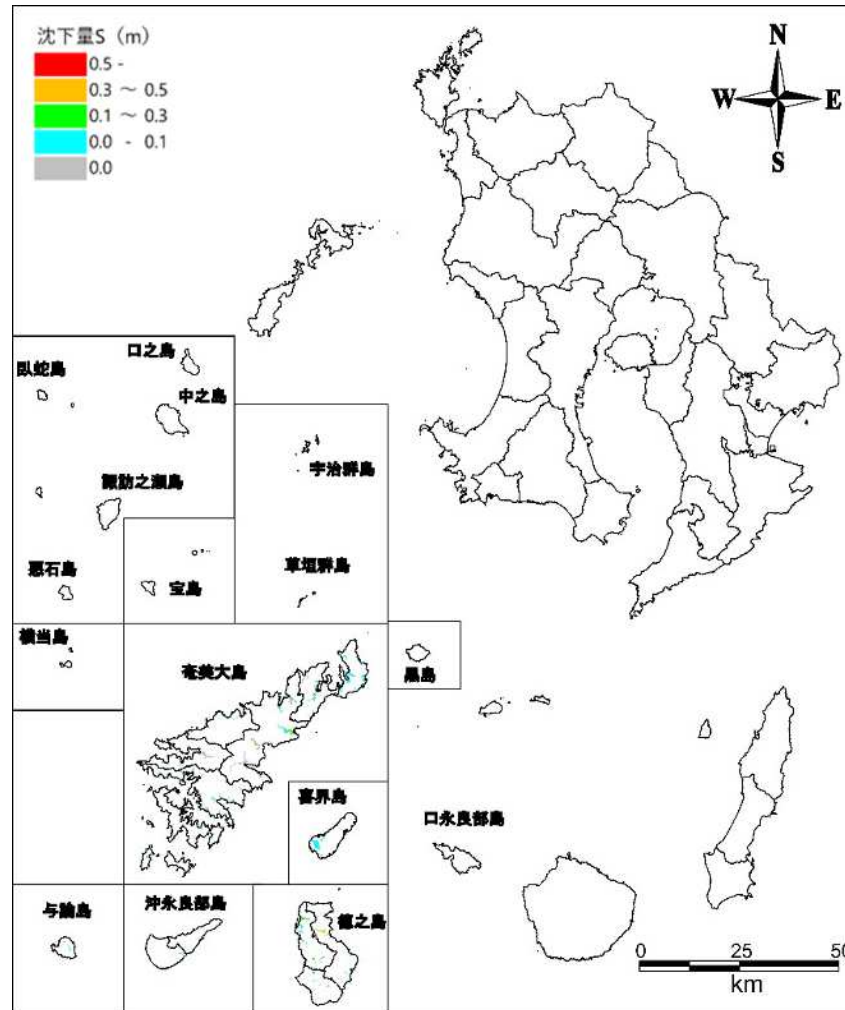
沈下量 (前回想定)



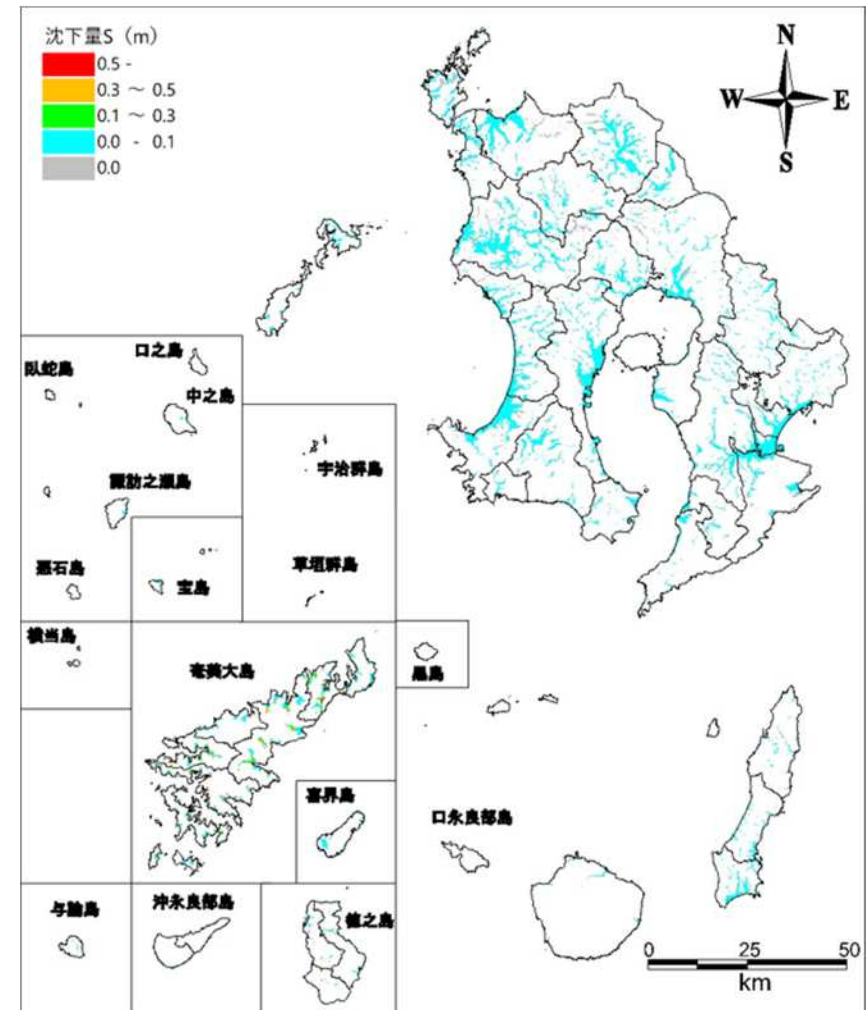
沈下量 (今回想定)

(参考) 前回想定との比較 (奄美群島太平洋沖 (南部) の地震)

- 要因：補正N値の計算手法の変化、地下水位設定値、浅部地盤モデル、計測震度の変化
- 前回調査：震度5弱以上のみ計算対象



沈下量 (前回想定)



沈下量 (今回想定)